

泰西史鑑
上編
三

分類	第	號
門		
部		
冊		
全	冊ノ内第	冊
分類	第	號

24502

N 34

圖書 和圖書 迦



a 1 3 8 0 3 2 3 2 4 6 a

福岡教育大学蔵書

泰西史鑑上編卷之三

佐倉藩 西村鼎重器 譯

上古ノ史三

非^ニ尼^ニ西^ニノ^ニ史

第二十三

地勢

○猶大人ノ國ニ相對シ地中海ノ濱ニ傍テ居住スル
處ノ民ヲ非^ニ尼^ニ西^ニノ^ニ人トイフ聖經ニ所謂迦南人トイフ

者是ナリ、其土地ハ、長サ二十五里、地學ノ一里ハ一度
大約我邦ノ六廣サ五里ニ過ギズ、ノ十五分ニ一黎巴嫩ト安底黎巴
嫩ト共ニ山脈ヲ以テ、他ノ亞細亞ヲ劃斷ス、其地質ハ
岩石多クシテ、肥膏ナラズ、故ニ耕種牧畜共ニ適應セ
ス、唯海中ニハ魚介多キヲ以テ、漁業ノ利、獨リ饒ニ按
ズルニ、上古ノ時、非尼西ノ民蓋ニ其始ハ捕魚ヲ以テ
業ト為シ、其後船ノ製造ヲ工夫シ、其後海賊ヲ業トシ、
終リニ至リ、盛大ナル貿易ヲ營ミシ者ナルニ
○凡ソ枋瘠ノ壤ト雖、通商ヲ盛ニスルハ、變ジテ
繁華ノ地トナルヲ得、ニ我獨速ノ本土ノ威、尼斯

ノ如キ是ナリ、今此史ヲ編デ、上古ノ航海通商ノ民、即
チ非尼西ノ史ニ及ブ、此民ノ事迹ヲ述ルノ前ニ、先ッ
航海通商ノ初メ、及ビ其次第ヲ略説ヒガルニカラズ、

第二十四

舊時ノ貿易 貨幣

○上古ノ民ノ貿易トイフハ、唯此人ノ物ヲ以テ、彼人
ノ物ニ易シ者ナリ、其初メ、此一人ハ、此物ヲ過多ニ有
シテ、彼物ニ不足シ、彼一人ハ、此物ニ不足シテ、彼物ニ
過多ナリ、此過多ノ物ヲ以テ、彼不足ノ物ニ易フ、以テ
互ニ其用ヲ通ズルハ、自然ノ理ナリ、

然ル。此有無相易ルノ法。常ニ窒礙ナキヲ能ハタ
其故ハ。今我不足シテ求メント欲スル処ノ物。何人カ
過多ニ是ヲ有スルヲ知ラズ。我過多ニ有シテ。人ニ與
ントスル処ノ物。誰人カ是ニ不足スルヲ知ラズ。是
由テ。彼此兩人ノ間ニ。別ニ一人アリテ。常ニ他人有餘
ノ物ヲ買テ。之ヲ儲蓄シ。價ヲ定メテ。之ヲ不足ノ者ニ
賣リ。以テ有餘者不足者ヲシテ。共ニ便利ナルヲ得
セシムルニ至レリ。此賣買ノ値ヲ立ルカ為ニ。百物ノ
内ニ於テ。最モ精良ナル品ヲ撰ミ。是ヲ以テ諸物ノ位
ヲ定ル者ト為ントス。是ガ為メニ。初メハ。良木貝殻金

類等ヲ撰用セリ。此内ニ於テ。金類ハ。其種類ヲ鑒別シ
鎔鍊ノ功ヲ經ルニ非ザレバ。用ニ供スルヲ能ハズ。然
レモ百物ノ内ニ於テ。是ヲ得ルヲ最モ難ク。其種類ニ
因テ。貴賤ノ別アリ。能ク永久ニ存シ。能ク細分シ得ベ
ク。運送ニ勞煩ノミナク。容易ニ物ト輕重ヲ比シ得ベ
キ物ハ。金類ニ如ク者ナシ。是ニ於テ。金類ヲ定メテ。諸
物ヲ賣買スルノ貨幣ト為セリ。其初メハ。金類ノ重サ
ヲ量リテ。之ヲ大小ニ分チ。物ノ値ト相比シテ。互ニ之
ヲ授受セリ。目今ニ至リテモ。支那ノ商人ハ。常ニ銀板
ヲ携ヘ。物ノ値ニ應ジテ。之ヲ截斷シ。互ニ相通用ス。後

世ニ至リ、貨幣ノ面ニ印シテ其量ヲ記シ、又其後ニ至
リ、幾許ノ値アルトイフヲ印記ス、荷蘭ニテハ、貨幣
ヲ名ケテ「ユニオン」トイフ、拉丁語ノ「モノ」ヨリ出ツ、
モニタハ記憶ノ義ナリ、羅馬ニ於テハ、賣買ノ貨物ハ、
獸畜ヨリ貴キ物ナシトシテ、貨幣ノ面ニ獸畜ヲ印記
シ、是ヲ「ベク」スト名ク、羅馬語ニテ、獸畜ヲ「ベク」シアト
云バナリ、希臘ノ古代ノ貨幣ハ、面ニ牡牛ヲ印記シ、之
ヲ「ブリス」ト名ク、ブリスハ牡牛ノ義ナリ、以色列人ノ
貨幣ハ、銀鐐ニテ作ル者ヲトス、故ニ貨幣ヲ直チ
ニ銀鐐ト稱ス、後世羅馬人、貨幣ヲ「アルゲンツ」ハ
義銀ノ

ト稱シ、法蘭西人「アルゲンツ」ト名ケシモ、同シ
義ナリ、獨逸國ニ於テモ、貨幣ヲ造リシハ、甚ダ古代ノ
事ナリ、其貨幣ノ内ニ、十字ヲ印記セル者アリ、故ニ之
ヲ「コロイツル」ト名ク、後世ニ至リ、更ニ厚幣ナル
者ヲ造ル、此貨幣ハ、其形厚キヲ以テ、法蘭西語ニ從テ、
「ロズ」ト名ク、義厚ト名ク、一千五百七十八年ニ至リ、更ニ小
「ロズ」ヲ鑄造ス、又「ヘルレル」ト名クル貨幣ハ、其始
メ、哈列トイヘル地ニテ造リシヨリ、此名ヲ得タリ、一
千五百十六年、波希米ノ約、金谷ニ於テ、大ナル銀礦
ヲ得タリ、其地ノ侯伯「西ル克」名人、是ヲ以テ許多ノ銀貨

ヲ鑄造ス、重サ各二兩、名ケテ「ヨアキムタール」金約谷
トイフ。後世之ヲ略シテ、單ニ「タール」ト稱ス。
○始メテ造リシ貨幣ハ、後世ノ貨幣ノ如ク精巧ナル
者ニ非ス。其質ハ粗澁ノ金類ニシテ、其形ハ圓ナルア
リ。三角ナルアリ、四角ナルアリ。面ニ符号ヲ記セル
者ナリ。貨幣ノ製ノ精良ニ赴キシハ、蓋シ非尼西人ヲ
始メトス。
○貨幣既ニ成ルノ後、當ニ是ヲ以テ隣國ノ民ト貿易
ヲ通スベキノミナラズ、遼隔絶遠國ト雖モ亦之ヲ以
テ貿易ヲ行フヲ得ベシ、又貿易スベキ貨物ナキ地

ト雖モ能ク是ヲ以テ往來スルヲ得ニシ、然ルニ上
古ノ時ハ、貿易ノ道甚ク狭ク、遠ク他國ニ及ボスヲ甚
ク難シ、其故ハ此頃ノ民ハ、未ク天下ノ地理ヲ知ラス、
且ツ諸國ニ暴虐兇虐ノ民アリテ、他國ノ人ヲ害スル
アリシヲ以テ、畏レテ遠ク行クヲ能ハズ、偶通商ノ
為メ他國ニ赴カントスル者ハ、必ズ數百人相集リ、隊
伍ヲ為シテ往來ス。此隊伍ヲ名ケテ商隊トイフ。今日
ニ至リテモ、亞細亞、亞弗利加ノ未開ノ地ニハ、猶商旅
ノ隊ヲ結ンデ行ク者アリ。此商隊、或ハ千頭以上ノ駱
駝ニ貨物ヲ裝載シ、連續シテ隊ヲ作シテ行ク、其隊ノ

長廿或ハ一里ニ及ブ者アリ、此商隊土地ノ炎熱ナル
か為メニ、多クハ夜行ヲ為ス、

○古代ノ民、此行商ノ法ヲ以テ、他國ノ貨物ヲ相通シ、
互ニ其利益ヲ為シ、草昧ノ時ニ分離セシ同族ノ者ニ、
再ニ相會令シ、互ニ懇親ヲ結ブヲ得、各其發明スル
處ヲ以テ、互ニ相交換シ、是ヨリシテ、人間交際ノ道起
ル諸國ノ民、他國ノ商旅ヲ待スルカ為メニ、險阻ヲ平
カニシ、道路ヲ修メ、旅舎ヲ建テ、橋梁ヲ架シ、以テ其往
來ヲ便ニセシム、都會ノ商人ハ、又是カ為ニ競フテ便
利ノ良法ヲ考案セニテヲ求人、

第二十九

歲市ノ始、按ズルニ、彼邦ノ歲市ハ、一年ニ一次、
開ク處ノ大市ナリ、我邦ノ歲終ニ開

ク歲市ト名同ク
ニテ、實異ナリ

○貨物ノ賣買ヲ盛ニセシカ為ニ、商人必ズ民ノ多ク
集會スル所ヲ求メテ、其交易ヲ行ハントス、凡ソ大ナ
ル祭事アルノ地ハ、諸民皆祭儀ヲ拜シ、供奠ヲ行ハン
トテ、四方ヨリ必ズ其地ニ幅湊ム、此處ニ市ヲ開ク所
ハ、其賣買ノ利、極メテ多シ、古語ニ曰ク、商店ノアル處
ハ、民ノ歸スル處ナリト、故ニ禮拜堂ノ門外ニハ、毎ニ
商店相連續シテ、貨物ヲ排列シ、門内ハ、商人各行李ヲ

解クノ処ト為ス。新約全書ニ基督賣買ノ商人ニ、瑣羅
門ノ聖殿ヨリ逐レシトイフヲ記セリ。我獨逸國ニテ
行ハル、大歳市トイフ者ハ必ズ禮拜堂ノ傍ニ之ヲ
開ク其初ハ諸民夕饌ノ祭儀ヲ拜スル為ニ集會セシ
ヨリ起リシ者ナリ。故ニ此歳市ニ猶夕饌市ノ名アリ
○上古ノ時己ニ方今ノ歳市ノ如キ者アリ。凡ソ諸國
ニ於テ其奉スル処ノ神ヲ尊テ為ニ必ズ大ナル祭儀
ヲ行ク此祭儀ニ因テ四方ノ民其所ニ輻湊ス。諸國ノ
商隊其地ニ利多キヲ見テ亦盡ク其地ニ聚合ス。是ニ
於テ異服異言ノ民悉ク一所ニ集會ス。其内ニ於テ殊

ニ非尼西ノ商人ヲ多シトス。凡ソ此國ニ於テ此人ヨ
リ得ル処ノ貨物之ヲ他ノ人ニ賣ルハ忽チ幾多ノ
利益ヲ得是ヨリ更ニ轉ジテ他國ニ賣買スルハ其
利ヲ獲ルニ量リ難シ。故ニ非尼西人其隣國ノ亞刺伯
ヨリ祭壇ニ供スル香料及ヒ金寶石ヲ取リ。亞爾義尼
ヨリ鍍銅及ヒ馬ヲ取リ。東方巴比倫波斯ヨリ文飾
ノ諸品ヲ取リ。南方埃及ヨリ細緻ナル木棉ヲ取リ。
孟斐斯^{埃及ノ地名}ノ四分ノ一ハ盡ク互市場ト為ルニ至
ル。又土地肥沃ナル巴勒斯坦ヨリ穀ト葡萄トヲ取
リ。以テ大市アル処ニ赴キテ貿易ヲ行ク。故ニ非尼西

人ノ通商ノ疆域、東南北ノ三方ニ開達ス、印度ノ民、又行
商ヲ為シテ、其國ノ物產ヲ送リ來ル、非尼西人、又亞刺
伯ヨリ真珠ヲ取リ、以テ精緻ナル器物ヲ作り、他國ノ
民ニ賣與シテ、十倍ノ利ヲ收ム、

第二十六

航海ノ發明、及ヒ其完成

○交易ノ法、行ハル、ヨリニテ、終ニ航海ノ事起レリ、
始ノテ船ノ製作ヲ發明セシ者ハ、古來ノ史家、皆之ヲ
非尼西人ニ歸ス、彼挪亞ノ孫迦南、其諸子ニ語リシ其
祖挪亞上帝ノ眷佑ヲ得、亞克トイハル方舟ニ乘シテ、

大洪水ノ難ヲ遁レシトイハルヲ以テ船ノ始ノト為
ス、凡ハ船ノ創造ハ、迦南人ニ在ルニシテ、然レド、迦南人
ト非尼西人ト、同種異名ノ者ナル時ハ、古來ノ史家ノ
說、實ニ撥用スニキニ似タリ、

珀尔屈曰ク、迦南ハ、亞ノ第四子ナリ、迦南ノ地ハ、其
名ヲ取テ之ニ名ケシ者ナリ、一名ヲ非尼西トイフ、
迦南ト非尼西ト、同地ナルハ、新約全書ヲ見テ、之
ヲ知ルニシ、此書ニ、婦人迦南尼亞ヲ或ハ西羅何匿
沙ト稱スレバナリ、此義未ダ詳ナラ迦南ノ長子西
頓、一ノ都邑ヲ建テ、亦其名ヲ取テ、之ヲ西頓ト号ス、

或ハ曰ク、擲亞ノ方舟トイールハ、方今ノ船舶ノ如キ
者ニ非ス、方今ノ舟ノ始ハ、或人、鳥ノ浮木ニ立テ水
ヲ涉ルヲ見、夫ヨリ工夫ヲ用ヒ、數片ノ木材ヲ編合シ、
獸皮ヲ以テ之ヲ被ヒ、以テ水上ニ浮ベシ者ナリ、或ハ
曰ク、船ノ始ノハ、或人、木材ヲ水ニ浮ベ、自ラ之ニ乘シ、
足ヲ以テ動搖シテ、前ニ進ノシ者ナリ、或ハ曰ク、船ノ
始ノハ、魚ノ形ヲ摸シテ、作りシ者ナリ、初ノ一木材ヲ
取テ、其中ヲ刳リ、其前後ヲ尖銳ニシ、櫂ヲ以テ、鰭ニ象
ドリ、舵ヲ以テ、尾ニ象ドリ、以テ其形ヲ成セリ、初ノハ、
帆ヲ用フルヲ知ラザリシガ、或人、舟中ニ在テ、泥衣

ヲ乾カシントシ、之ヲ竿上ニ掲ゲシニ、其衣、風ヲ受ケ
テ、舟行之ガ爲メニ疾速ナリ、是ヨリ帆ノ用ヲ發明シ、
始メハ、獸皮又ハ蒲席ヲ以テ、帆トセシガ、後世、用帆ノ
法、熟スルニ及ビ、終ニ麻布ヲ用フルト爲ル、其後此
船舶ヲ以テ、航海ヲ爲シ、危險ノ患ナキニ至ルマデハ、
幾多ノ危難ヲ冒シ、幾多ノ人命ヲ損ヒシカ、殆ト料
ルニカラス、抑、舟ノ始メヲ考フルニ、唯一葉ノ扁艇ニ
過キザリシニ、漸々工夫ヲ積ミ、遂ニ今日ノ如キ巨大
ノ兵艦ヲ作ルニ至リシヲ見レバ、人ノ智巧、實ニ畏ル
ニキ哉、今日、兵艦ノ状ヲ見ルニ、大砲ヲ脩ルヲ百門ニ

過ギ、兵士ヲ載ル千人ニ至リ。烈風暴雨ニ管セス。旌
帆雲霓ヲ摩シ、大洋ヲ横行スル。一箭ヨリモ疾ク。舵師
手ヲ舉テ一タビ指セハ、左右前後、四轉意ノ如クナラ
ザルハナシ。他國ノ民ノ未タ此兵艦ヲ知ラサル者ハ、
是ヲ見テ城郭ト爲シ、櫓竿ノ空ニ挺スルヲ見テ高塔
ト爲シ、其海ニ浮デ来ルヲ驚カザルハナシ。或ハ然ラ
サレバ、是ヲ見テ天神ト爲シ、又ハ神工ト爲シ、拜跪尊
崇セリルハナシ。

○始メテ船ヲ造リシ時ハ、未ダ大洋ノ中心ヲ横絶ス
ルヲ能ハス。唯海岸ニ泊テ航行スルノミナリ。時トシ

テハ、海岸ヲ離ル、一アルニ、陸地ヲ失ハニ。一ヲ恐レ
テ、速ク出ルヲ能ハス。又船中常ニ鳥ヲ養ヒ置キ、若シ
暴風ニ漂蕩セラレテ速ク洋中ニ出テ、陸地ヲ失フ
アル時、此鳥ヲ放テ飛シメ、其後ニ從テ颿行人。然ル
ハ必ス陸地ニ迫ツクヲ得ニ。一ナリ、又暗礁沙洲
ニ觸ル、ノ恐レアルヲ以テ、常ニ晝間ノミ航行シテ、
夜中ハ必ラズ止息ス。

○晝夜ノ別ナク、能ク舟船ヲ以テ、大海ノ中心ヲ横絶
セシハ、非尼西人ヲ始メトス。黎巴嫩山ニ生スル柏香
木ハ、最モ良材ニシテ殊ニ舟船ヲ造ルニ適ス。非尼西

人ノ造リニ船ニハ、長形圓形ノ二様アリ。長形船ハ、狭クシテ、其尾尖銳ナリ。是ヲ名ケテ「アルゴトイフ」疾走ノ義ナリ。多ク兵艦ニ用ス。圓形船ハ、是ヲ「ガウロイト」イフ。圓形ノ義ナリ。闊クシテ、其底扁平ナリ。故ニ其行遅シ。然レモ多ク貨物ヲ裝載スルニ適スルヲ以テ、定メテ商船ト爲ス。

○非尼西人。此舟船ヲ以テ、渺々タル地中海ニ浮ビ、晝ハ太陽ヲ以テ指南トシ、夜ハ星宿ヲ以テ前導ト爲シテ、洋中ヲ航行ス。無數ノ星辰ノ中ニ、殊ニ光輝燦爛トシテ、常ニ居處ヲ變ビス。出沒隱現セザル者アリ。何レ

ノ國ハ、何ノ星ト同シ方位ニ在ルトイフ。人ノ精密ニ測リ置キ、其帆ヲ開クニ及ビ、一直ニ其方ニ向テ走ル。

○然レモ亦天氣屢變ジ、陰雲瀰漫シテ、日星ノ光ヲ見ザルコトアリ。然ルハ、非尼西人ハ、必ズ海岸ニ船ヲ泊シテ、天氣ノ霽ルヲ待ツ。未ダ磁針盤ヲ發明セザルノ前ハ、何人モ、此ノ如キ時ニ、船ヲ洋心ニ出ス者ナシ。磁針盤ハ、自ラ異常ノ性アリテ、其尖、常ニ北方ヲ指ス。故ヲ以テ、海客常ニ之ヲ携ヘ、晝夜共ニ四方ヲ指定シ、其航路ヲ定ムルノ具ト爲ス。然レモ、此針盤ノ發明ハ、航

海ノ業ニ後ル、千有餘年ナリ。知らズ此一片ノ黒
錢子ヲ以テ、斷然トシテ天ノ方位ヲ定メ、唯此一小器
ニ倚賴シテ大洋ヲ横絶スルヲ始メシハ、何人ナル
ヤ。歐羅巴人ノ針盤ヲ知リシハ、一千一百年、聖墓ノ地
ヲ復セント欲シ、兵ヲ出シテ、土耳其人ト戦ヒ、亞喇
伯人ヨリ、之ヲ得シヲ以テ、始メトストイヘリ。然レデ
歐羅巴諸國ニ於テ、必要ノ器ナリトシテ皆之ヲ用フ
ルヲ知シハ、一千三百年、威尼斯人、針盤ノ製ヲ改造
セシ以來ノヲナリ。此時ヨリシテ、貿易航海、共ニ古來
未ダ有ラザル處ノ隆盛ニ至リ。何レノ海モ、商舶至ラ

ザルノ所トク、更ニ新世界ヲ覓ヌ出スニ至レリ。
士奔達那ノ書ニ曰ク、弗拉斐日、荷約人一千三百零
二年、那不勒意大利ノ地名ノ亞馬非ニ於テ、方今ノ磁針盤
ノ製ヲ發明セリ。

第二十七

非尼西人ノ航海

①此民ノ航海ヲ始メシ比ハ、未タ海路ニ明ラカナラ
ザルヲ以テ、絶遠ノ國ニ赴クヲ能ハズ、先ヅ始メニ安
全ナル港巢ヲ求メ、其船破傷ヲ受ル氏之ヲ修理スル
ノ所ト爲ス、遂ニ裝載セル貨物ヲ其處ニ揚グ、久ク其

地ニ留滞シ以テ貿易ノ利ヲ收メ夫ヨリ轉ジテ其四
近ノ地ニ貿易ヲ行フ此ノ如クシテ遂ニ遷リテ其地
ニ居ヲ定ムル者アルニ至ル其地ヲ名ケテ屬地又ハ
植民地トイフ非尼西人ノ居ヲ徙セシム蓋シ居此路
嶋ヲ始メトシ夫ヨリ進ンテ克勒達嶋方今ノ干地島
ニ及ビ此者ナリ其比非尼西人ノ此等ノ地ニ赴キ
ハ多ク海賊ヲ業トセシ者ナルニ是ヨリ非尼西人
ハ其航路ヲ轉ジテ耶奇斯海多嶋海ニ赴キ希臘國ノ
海濱又ハ諸島ヲ經テ小亞細亞ノ海濱ニ及ビ此等ノ
諸地ニ幾多ノ植民地ヲ開ケリ其後希臘人自ラ航海

ノ業ヲ開キ其勢威強盛ナルニ及ビ非尼西人是ノ辭
ヲ更ニ其航路ヲ轉ジ也弗利加ノ北渚ニ赴キ貿易ヲ
行フ其地ニハ今モ猶殘存斯の里波利亞及片ノ如
ク海賊ヲ以テ業トスルノ諸部落ナリ非尼西人此所
ニ長テ加尔達額島地加亞多墨坦勒的斯等ノ諸地
開ク其内ニ長テ加尔達額ハ後年ニ至リ盛大ノ國ト
為ル又其地ニ相對シル西齊里撒丁耶ノ嶋中ニモ幾
多ノ都邑ヲ開創ス

珀尔屈曰ク亞尔及耳ハ一千八百三十年法蘭西ノ
大將紀尔蒙攻メテ之ヲ取ル

○非尼西人、諸國ニ貿易シテ、能ク其利ヲ收ムルト雖
凡其利ノ最モ大ナルハ、西班牙ニ及デ者ナシ、非尼西
人、初メテ西班牙ニ至リシニ、金銀及ヒ其他ノ金類、雜
然トシテ、地面ニ露出スルヲ見ル、非尼西人、驚喜ニ堪
ス、盡ク收テ其船ニ載歸リ、彼前木石又ハ鐵ヲ以テ作
リシ諸器ヲ、今新ニ金銀ヲ以テ改造シ、船編ノ如キ、
從來木ヲ以テ作り、中ニ鉛ヲ實セシヲ、今改メテ金銀
ヲ以テ之ヲ造ルニ至ル、西班牙ノ土人ハ、金銀ノ此ノ
如ク貴キヲ知ラズ、却テ非尼西人ノ甚ク貴重スル
ヲ怪シ、多ク之ヲ齎シ來リテ、非尼西人ノ作りシ精緻

ナル器物ト交易ス、非尼西人ハ、此地利源ノ多キヲ以
テ、猶之ヲ探ル為ニ、國中ヲ通過シテ、一端ヨリ一端ニ
達ス、其初メ多ク金ヲ見出セシ地ヲ、名リテ達爾錢索
ト云ス、遂ニ此國ニ幾多ノ都邑ヲ開創セシガ、其内ニ
於テ加爾閑一名曰巴拉大馬拉牙塞維列、加爾閑、
斯一名加爾閑、斯最モ大邑ト為リ、西班牙ノ地ハ、此時
ニテ、伊伯路河方今ノ厄波羅河ノ名ヲ取テ、伊伯利ト
稱ヒシガ、非尼西人、改メテ西班牙ト名ク、非尼西ノ語
ニ、石鼠ヲ西班牙トイフ、西班牙トハ石鼠國トイハル義
ナリ、是ヲ石鼠國ト名ケシハ、此地ニ、石鼠狂跳シテ、人

屋、崩壊ストイヘル諺アレバナリ、非尼西人久シク
此地ニ在テ地面ニ露ハル、金銀ヲ採リ盡シ、遂ニ深
ク蟻穴ヲ穿テ、金銀ヲ掘リ、是ガ為ニ、幾多ノ人屋ヲ崩
壊スルニ至レリ、然レハ他國ノ人ヨリ、是ヲ見レバ、非
尼西人ハ、則チ此地ノ石鼠タルニト云一リ、
○此時、天、希爾孤勒ノ天柱、巖石ノ名目、已拉大、燃發
此上ニ在リヲ以テ、世双ノ西端ト為シ、壓瀾的ノ洋中
ニハ未ダ一隻船ヲ浮ブル者ナシ、非尼西人始メテ船
ヲ此天柱ノ外ニ出シ、茫々タル大洋ノ中ヲ航行セシ
ト欲ス、先ヅ加的斯ノ港ヨリ、帆ヲ開テ、北方ニ航シ、貿

易ノ地ヲ求ム、然レバ獨リ貿易ノ利ヲ專ニセシト欲
シ、敢テ他人ヲシテ、之ヲ知ラシメズ、其船既ニ天柱ノ
北方ニ至リシニ、海水粘滑ニシテ膠ノ如ク、奇醜ナル
海怪群ヲ成シテ現出シ、又葭荻ノ類ノ濕潤ニシテ、強
硬ナル者海中ニ矗立シテ、船ノ通行ヲ阻礙ス、此時ニ
至テハ、唯船ノ破壊覆没ヲ待ツヨリ、外他策ナシ、偶羅
馬ノ船一隻、非尼西船ノ蹤ヲ逐フテ來ルアリ、非尼西
人ハ、傍ニ沙洲アルヲ見テ、之ニ倚ラシト欲ス、羅馬ノ
船亦從テ沙洲ニ近ツキシニ、兩國ノ船共ニ沙洲ニ膠
ニテ損壞ヲ受久然レバ、非尼西ノ船ハ、其損壞甚シカ

ラザリニヲ以テ危難ヲ脱シテ西班牙ニ還ルヲ得
タリ加的斯人其所行ノ勇敢ナルヲ賞シ公庫ヲ開テ
之ニ賑恤ストイス

○其後非尼西人ハ更ニ船ヲ壓瀾的洋ノ北方ニ出シ
遂ニ幾多ノ嶋嶼ヲ求メ得タリ其地ニ良錫アルヲ以
テ名ケテ錫國トイス此島嶼ハ蓋シ蘇尔林及ビ比利
敦ノ諸嶋ナルニシ夫ヨリ猶其航路ヲ進メテ竟ニ普
魯士ノ東岸ニ達ス此地ニ琥珀ノ光彩異常ナルヲ見
ル此比ハ琥珀ト金ト其位ヲ齊フセリ非尼西ノ語ニ
琥珀ヲ弗吋多瑜トイフ故ニ此海岸ヲ弗吋多瑜岸ト

名ク非尼西人北方ノ航海ハ此地ヲ以テ終リトス

第二十八

非尼西人ノ發明

○非尼西人ノ貿易ハ他國ノ物ヲ買取リ更ニ之ヲ他
國ニ轉賣シ以テ許多ノ利ヲ收ムルノミナラズ自國
ニ於テモ工作ノ術大ニ開ケ其製造ニ出スノ物亦少
ナカラズ其内ニ於テ此國人ノ發明セル紫色ノ染料
最モ他國ニ稱譽セラル初メ此國ニ羊狗トイヘル獸
アリ雅羅邑ノ海濱ニ於テ紫蜘蛛名月ノヲ食ヒ鮮血
淋漓トシテ其家ニ還ル狗ノ主人之ヲ見テ謂ヘラク

其狗他所ニ於テ人ニ擊タレ。自ラ其毛ヲ以テ血ヲ拭
ヒシ者ナリト。因テ細カニ狗ノ體ヲ檢スルニ些少ノ
疵ナク其毛ノ血ヲ見ルニ鮮紅他ニ異ナリ主人之ヲ
奇ナリトシ。狗ノ歸リ来リシ道路ニ從テ雅羅ノ海濱
ニ至リシニ幾多ノ紫蚰蜒アリテ。体中盡ク鮮紅ノ液
ヲ實セリ。是ヲ此染料ヲ發明セシ始メトス。此染料ヲ
雅羅紫ト号シ其内ニ於テ真紅色ト桔梗色ノ二種。最
モ他國ニ稱セラレ。其價甚ク貴ク。君長富人ニ非ザレ
ハ此色ノ衣ヲ服スルヲ能ハザルニ至ル。新約全書ニ
路加富テ各ナル者ノヲヲ誦スル條ニ其者資産富饒

ニシテ常ニ紫色ノ衣ヲ着セリトアリ。非尼西人ハ常
ニ毛布ニ此染料ヲ用ヒ。織工染工必ズ相預テ用ヲ為
ス。

○非尼西人又偶然ノ事ヨリシテ玻璃ノ製法ヲ發明
セリ。初メ非尼西ノ舟師船ヲ海江ニ泊シテ食物ヲ煮
ントヒシニ竈ニ用ノベキ石ヲシ。因テ舟中ヨリ數塊
ノ硝石ヲ取リ之ヲ火上ニ排置シ其トニ煮食ノ器ヲ
載ス。此硝石忽チ火熱ニ因テ熔解シ沙ト灰ト混合シ
一ノ光輝アル物ト為ル。舟師驚怪シ之ヲ取テ放冷セ
シニ凝テ透明ナル石ト為ル。是即チ玻璃ナリ。始ハ唯

物ヲ飾ルノ用ニノミ供ヒ其貴キヲ金ト價ヲ同フセ
リ其後之ヲ以テ幾多ノ翫物ヲ作り蒙昧ナル夷人ニ
鬻テ大ニ其利ヲ得タリ其後更ニ埃及ノカラ假リ
玻璃板照面鏡等ノ諸物ヲ造ルニ至リ

以西鐸路ノ史ニ曰ク提庇留羅馬帝ノ時一人
玻璃蓋ヲ帝ニ獻ズル者アリ其蓋能ク屈曲スルヲ
得ベシ帝取テ之ヲ地ニ抛シ蓋碎クテ四散ス工
人其碎片ヲ拾取り囊中ヨリ小鐵鏈ヲ出シ打テ之
ヲ綴合セシテ整完故ノ如シ帝工ノ問テ曰ク汝
ノ外猶此ノ如キ工ヲ為ス者アリヤ答テ曰ナシ帝

直ニ其工ハヲ捕ハテ之ヲ殺セリ帝ノ意蓋ニ謂ヘ
ラク玻璃ノ精巧此ノ如キハハ世人遂ニ黄金ヲ賤
ハニ至ルミトナリ

此他非尼西人ノ創製セシ物猶幾多アルミテ算術ノ
如キモ蓋ニ此民ノ發明トニ処ニシテ算術ヨリシテ
遂ニ貿易ノ道トエナルニ至リシナルミテ文字ノ創
製ノ事ニ付テハ既ニ第十五節ニ詳ナリ

第二十九

非尼西ノ盛衰

○非尼西人ハ上文ニ記スル如ク海陸共に廣ク貿易

ヲ行ヒシヲ以テ。世界中第一ノ富國ト爲ル。其商人ノ
言ニ從ヘバ。先知人^ハ以賽亞^トイフ者。此國ノ君長ニシ
テ。其商市ノ富饒。全國ニ冠タリトナリ。此國ハ原來疆
域狹小ニシテ。貧窶ナル地ナリシガ。暫時ニ此ノ如ク
隆盛シ。地上ノ樂土ト爲ル。四時程毎ニ都邑アリ。都邑
ノ間ハ。民家相連續ス。許多ノ都邑ノ内ニ於テ。西頃ヲ
以テ。最モ古邑ト爲ス。聖經ニ據ルニ。迦南^ノ長子曲
頻^ノ名ヲ取テ。此邑ニ名クシ者ナリ。此邑ハ。民父^ト稱
ス。昔ノ時。已ニ大邑ノ名ヲ得。雅各^ノ天幸ヲ得。此
地ノ事。付テ。明ナル記載アリ。西頃ニ次グ處ノ古邑

ハ。推羅ナリ。此地ハ。後年ニ至リ。其繁盛。西頃ニ勝リ。世
界有名ノ大都會ト爲ル。其初メハ。西頃人ノ開創セシ
處ナルヲ以テ。或ハ稱シテ。西頃ノ女邑トイフ。此二邑
及ビ二邑ノ海濱ニ於テ。生活ヲ營ム者。消費シ盡ス者。
殆ド其數ヲ知ラズ。海港ニハ。船旗ノ天ヲ摩スルアリ。
街中ニハ。車輪ノ地ヲ轟カスナリ。工場ニハ。鉦聲ノ相
應ズルアリ。住居スル者。動作スル者。貿易スル者。諸種
ノ人物ヲ雜ヘ。市中海濱。共ニ貿易ヲ營ム人。充滿セ
ザルハナシ。是ニ曰テ。凡百ノ貨物。要用ト戲玩トヲ論
ゼズ。必ズ非凡西人ノ手ヲ經ガルヲ得ズ。故ニ當時

非尼西ヲ稱シテ、世界ノ大互市場ト為ス。以賽亞曰ク、
雲ノ如ク飛ビ、鵠ノ如ク集リ、戸牖ニ入ル者ハ何人ゾ
ト。蓋シ賣買スル人ノ然ルニ、此時隣國ノ君ニ、貪慾暴
戾ナル者アリ、非尼西ノ富饒ニ垂涎シ、遂ニ此國ノ大
患ヲ為セリ。先知人^{イシケル}以西結^{サイアス}以賽亞禍ノ已ニ近クヲ
知リ、其民ニ先兆ヲ示シテ曰ク、吁嗟、答施斯ノ船モ為
ニ悲泣セザルベカラズ、此國、人ノ為ニ、悉ク摧殘セラ
ルベシ。又曰ク、上帝手ヲ海上ニ挺出シ、諸ノ王國ヲ破
壞セントス、非尼西ノ諸邑モ、亦其破壞ノ内ニ在ルベ
シ。西頓ハ人ニ搶掠セラレ、後夕歡聲旧ノ如キヲ能ハ

ザルベシ。又曰ク、答施斯ノ船モ之カ為メニ、悲泣セザ
ルベカラズ、推羅ノ城郭遂ニ人ノ為ニ殘破セラルベ
シ。

珀尔屈曰ク、非尼西ノ船ヲ、答施斯ノ船ト云フハ、此
國ノ民、答索斯^{ダサス}亞波士的^{アバサ}ノ生レシ地ニ於テ、金銀ノ
大貿易ヲ行ヒシニ因テ、此名ヲ得タリ、

耶穌生前六百年、拿破崙^{ナポレオン}破各鐸^{ダサス}諸索^{サス}王^{バビロン}、大軍ヲ以テ、非
尼西ヲ侵シ、西頓ヲ攻テ之ヲ拔キ、進テ推羅ヲ圍ム、推
羅人善ク拒グ、巴底倫王^{バビロン}之ヲ攻ルヲ十三年、推羅人其
終ニ守ルベカラザルヲ知リ、盡ク資財ヲ船ニ積テ

海島ニ遁ル。巴庇倫王。竟ニ其城ヲ拔キシカドモ、唯空
城ヲ得シノミナリ。雅羅人、其海島ニ於テ。新ニ都城ヲ
築キ、之ヲ新雅羅ト名ケ、其壯麗、旧雅羅ニ異ナラズ。此
所ニ於テ、後、諸國ト貿易ヲ營ミ、其隆盛ヲ致ス。殆ニ
ト三百年。馬西多尼王大亞勒山特ノ時ニ至リ、此城、馬
西多尼ノ大軍ニ攻囲セラレ。都人防戰甚ク力ム。馬西
多尼人、大ナル土堤ヲ城外ニ築キ、是ヨリ城中ニ攻入
シ。終ニ之ヲ陷ル。

珥尔低曰ク、斯多拉波ノ書ニ據ルニ、新雅羅ハ、旧雅
羅ヲ距ルヲ三十「スグダイ」又度ノ名「スグダイ」ハ百
二十五步、地學ノ一歩ハ

我五尺三寸五
分強ニ當ル。トリト云リ、古ル歌流ノ地圖ヲ見ル
ルニ、新雅羅ハ海嶋ノ上ニアラズ、按ズルニ、亞勒山
特王、此城ヲ攻ルガ為ニ、大ナル土堤ヲ築キ、終ニ此
島ヲ以テ、陸地ニ連續ヒシメシ者ナルベシ。

亞勒山特、雅羅人ノ僥強ヲ怒リ、其都人ノ七千人ヲ斬
首シ、二千ハ、海濱ニ於テ十字架ノ刑ニ行ヒ、三万人
ヲ賣テ奴隸ト為ス。是ニ於テ、高城華屋、變ニテ瓦礫ノ
場ト為ル。亞勒山特ノ末年、土人雅羅ヲ再興セシカド
モ、唯一個ノ小邑ニシテ、旧時ノ壯麗ハ再ビ之ヲ見ル
ヲ能ハス。雅羅ヲ滅スノ年、亞勒山特、泥祿河ノ西岸

ニ於テ新ニ都城ヲ造リ。已ガ名ヲ取テ、西勒山の黎ト
名久是ニ於テ古來雅羅ニ於テ行ヒニ貿易多ク移リ
テ西勒山の黎ニテ之ヲ行フ。雅羅ノ滅亡以來、非尼西
ノ海濱ハ渺々タル沙漠ト爲リ、旧來ノ通都大邑アリ
ニ所今ハ唯矮陋ナル漁舍ノ散在スルヲ見ルノミ。
珀尔僞曰ク非尼西人ノ奉ズル諸神ノ内ニ於テ、勇
武ノ神、太陽ノ神、慈愛ノ神ヲ以テ最モ貴シトス。雅
羅ニテ行フ勇武ノ神ノ祭儀ハ殊ニ盛大偉麗ナリ
ニトナリ。

又曰ク、非尼西ノ政体ハ今ニ至テハ詳ニ知ルヲ能

ハズ、武ハ以爲ク國王政治ノルニシ。其内ニ王ト稱
スル者數人アリテ殊ニ希覽トイハル王ハ、瑣羅門
第二十二ヲ助ケテ上帝ノ聖殿ヲ營造ヒシ人ナリ
ト云ル。今按ズルニ此國ノ政体ハ蓋ニ國民共和ナ
ルニシ。

巴比倫亞述馬太ノ史

第三十

通覽 地勢

○巴比倫並述馬太ハ皆亞細亞ノ地ナリ。此諸國ハ非
尼西ト異ニシテ其疆域廣大常ニ他國ヲ侵奪スルヲ
好ム。他國ノ民此三國ノ侵奪ヲ受シテハ上文ニセ
屢是ヲ記セリ。唯他國侵奪スルノミナラス三國亦互
ニ兵ヲ出シテ相争ヒ以テ相雄長タラシメテ求ム故
ニ或時ハ此國ヨリ雄豪ヲ出シ或時ハ彼國ヨリ雄豪
ヲ出ス其雄豪ノ出ル時ハ能ク威力ヲ以テ隣國ノ壓
倒スルニ隣國ニ雄豪出ル時ハ又却テ為メニ壓倒セ
ラル。此ノ如クスルヲ年久ニク三國共ニ民力凋弊シ
終ニ他國ノ民即チ波斯人ニ攻滅セラレテ三國ノ民

盡ク其制轄ヲ受ルニ至ル

○此三國ノ民ノ居住セシ所ハ幼發拉^{エウフラテ}的河^{ナイル}ト底格^{ダゲ}里^{リス}
河ニ濱セル低河ノ良地ナリ。此地ハ氣候溫和ニシテ
土性ヒ亦甚ク肥沃ナリ凡ソ穀物ノ種ヲ下スルハ大
抵二百倍或ハ三百倍ノ實ヲ收ムルヲ得小麥ハ其
葉ノ廣サ四^{又度ノ名一}按^{ハ我}ニ至^{ニ至}リ黍^{ハ其成熟}ハ其成熟
スルヲ外ニ比類ナク又椰棗樹^{ハ其初大抵此地ヨリ}所々ニ叢生ス方今歐
羅巴ニア^{ハ其初大抵此地ヨリ}ル果穀ノ良品ナル者ハ其初大抵此地ヨリ
移セシ者ナリト云リ

○上古人民ノ諸方ニ蕃衍セシ時牧畜ヲ業トスル者

ハ此地ニ肥美ナル牧場アルヲ見テ、来リ集リ、耕作ヲ
業トスル者ハ、此地ニ膏腴ナル田野アルヲ見テ、亦来
リ集リシ者ナルベシ。故ニ此地ニハ、人類蕃殖スル
最モ早シ。幼發拉的河、一年ニ一度漲溢シテ、河傍ノ地
ヲ浸ス。汎祿河ノ埃及ニ於ルガ如シ。居民其水害ヲ
防クガ為ニ、或ハ河濱ニ土堤ヲ築キ、又ハ溝渠ヲ開テ、
其水ヲ誘導ス。土人此土堤ノ後ニ、草舎ヲ營テ、住居ト
為ス。是ヲ天下都邑ノ始トス。
○凡ソ天上ノ星象ノ内ニ、常度ヲ守リテ出沒スル者
アリ。此地ノ民、是ヲ觀テ、何星ノ顯ハル、何穀ノ種

ヲ下スバハ、必ラズ能ク成熟スルヲ得ルト云フ。ヲ
發明シ、遂ニ星學ノ為ニ前途ヲ開ケリ。然レモ是ヨリ
シテ亦異端ニ沈ムノ害ヲ生ズルヲ免カレズ。民ノ
愚蒙ナル者、星ヲ以テ、田野ヲ守ルノ神ト為シテ之ヲ
崇拜シ、其恩ヲ謝スルガ為ニ、祭日ヲ定メ、供物ヲ設
ク。然レモ天既ニ明ルバハ、神体ニ星ヲ隱没シテ、崇拜ス
ベキ物ナキヲ以テ、是々為ニ、禮拜堂ヲ建テ、星像ヲ作
リテ、其内ニ安置シ、以テ之ヲ崇拜ス。此ノ如キ事ヨリ
シテ、異教ノ起リシ。ハ、此他猶諸國ニ多ク是アリ。
○此地ノ甚ダ肥沃ナルヲ以テ、四方ノ民、暫時ニ来リ

集ル。然レモ許多ノ民。一所ニ聚居シ難キヲ以テ止
ヲ得ズ。分レテ處々ニ散居ス。其始メ聚合セル時。早ク
其所ニ都邑ヲ開キ。高崇天ニ達スルノ層塔ヲ作リシ
ト云フ。ハ上文既ニ之ヲ記セリ。第十一節此都邑ヲ巴
別一名巴比倫ト云フ。

○散居セシ民ノ内ニ寧祿トイフ者アリ。第十一節寧
孫ニシテ。強猛ノ獵人ナリ。初メ獸畜ヲ制服シテ。威
ヲ山林ニ奮ヒ。更ニ人ヲ制服シテ。威ヲ國中ニ奮ハシ
ト欲シ。許多ノ獵人ヲ率テ。隣境ヲ侵奪シ。先那トイ
ヘル平行ノ土地ヲ取テ。是ガ酋長ト爲リ。更ニ兵ヲ出

シ。巴比倫ヲ攻テ之ヲ取リ。耶穌生前二千年ノ此姦テ
一ノ王國ヲ建テ。巴比倫國ト号ス。

珀尔偃曰ク。異教ノ史ニ伯路トイフ人アリ。沙利那
人謂ハク。寧祿ト伯路トハ同人ナリト。其書ノ第
一卷百九十七葉ニ出ズ。

○巴比倫ノ建創セシ大約同時ニ。亞述國起ル。此國ノ
開祖ハ閃ノ子亞述ナリ。當時寧祿ノ威勢強大ナルヲ
以テ。亞述之ニ屈下スルヲ欲セズ。其牧人ヲ率テ。低
格里河ヲ踰テ。巴比倫國ノ東北ニ於テ別ニ國ヲ開キ。
巴ガ名ヲ取テ。亞述國ト号ス。

珀尔屈曰ク。此外。東方ノ諸國ニハ。開創者ノ名ヲ以
元國号ト為ス者多シ。

亞述ノ子尼奴斯及ビ其后瑟美拉弥ノ時ニ至リ。國威
隆盛ニシテ。中亞細亞ノ大國ト為リ。巴比倫ノ如キモ
亦亞述ノ郡縣ト為ル。尼奴斯瑟美拉弥ノ二人。此ノ如
ク其國ヲ盛大ニセシヲ以テ。或ハ此二人ヲ稱シテ。亞
述國ノ開祖ト為ス。

珀尔屈曰ク。寧祿ノ子尼奴斯。亞述ノ開キニ都邑ヲ
取リ。首都ヲ其地ニ遷ス。是ヨリ以來。國号ヲ巴比倫
ト稱セズニテ。大亞述國ト号ス。尼奴斯其都城ヲ廣

大偉農ニシ。己ガ名ヲ取テ尼々。微ト稱ス。入斯知那
羅馬ノ史。尼奴斯ヲ以テ。亞述國ノ初世ノ王ト稱セ
シハ。其國ヲ昌大ニセシ功業。亞述ノ及ブ處ニ非ル
ヲ以テナリ。詳ナルハ。沙利那ノ書ノ第一卷百九
十八葉ニ出ズ。按ズルニ。本文ニハ。尼奴斯ヲ以テ。亞
述ノ王ト為ス。而シテ。相抵牾ス。殷温ノ註文ニハ。尼
奴斯ノ開創者ト為ス。語林ニハ。共ニ尼奴斯ヲ以テ。亞
述ノ王ト為ス。其父ヲ記セズ。太多拉ノ史ニハ。尼奴
スノ子ト為ス。是ナリ。微ヲ以テ。亞述ノ連ル處ト為
ルヲ知ラズ。

第三十一

尼奴斯 瑟美拉彌

○尼奴斯其威ヲ以テ巴比倫ヲ取リ更ニ其周圍ノ地ヲ併ス戰捷ツ毎ニ許多ノ貨財ヲ獲テ歸ル其富盛ノ勢ニ衆ニ大ニ都城ヲ營造セント欲シ低格里河傍ノ一小邑ノ地勢宜キニ適フヲ相テ定テ首都ト爲シ其當テ降服スル処ノ他國ノ民ヲ役シテ都城ヲ造ラシメ其大リ周圍二十里トイフ先知人約拿ノ言ニ此都城甚ダ蕃庶ニシテ未ダ左右ヲ知ラザル小兒ノ數十二万人アリト是ヲ以テ推ス時ハ居民ノ全數其多キヲ悉ニ卜測ルベカラズ方今歐羅巴ノ大都會ト稱スル倫敦巴黎斯ノ如キモ猶一步ヲ讓ルニシ然レバ

此一都城ヲ以テ他ノ一國ニ抵ルト云フモ可ナルニ都城成ルニ及ビ尼奴斯已ガ名ヲ取テ之ヲ尼ニ微ト名ク其後尼奴斯更ニ兵ヲ東方ニ出シ進テ把克多拉ニ至ル

珀尔係曰ク把克多拉ハカス比海ノ傍ニテ阿克斯河ニ合スル小河ノ畔ニ在リ沙利安ノ史ニ閃ノ孫其帖此民種ノ祖ナリトイヘリ此地ノ歷世ノ王ノ内ニ於テ索老斯的ノ外ハ後世其名ヲ傳ヘズ此人ハ始テ星學ヲ發明セシ人ナリ亞勒山得誦ノ史ニ云ク索老斯的其將ニ歿セントスル氏上天ニ祈リ

テ、電火ノ為ニ死セシヲ求ム。果シテ雷電ニ震撃
セラレテ死ス。後人其遺骨ヲ拾フテ珍藏スト。後世
ノ史家多ク索老斯のヲ以テ、異教ヲ奉シ、魔術ヲ修
スル者ノ祖ト為ス。然レモ此說確據アルニ非ズ。蓋
シ電火ノ為ノニ震死セシニ依テ、是ヲ附會セシ者
ナルニシ。

尼奴斯此地ニ於テ、義麗ニシテ智略アル婦人ニ逢フ。
其名ヲ瑟美拉弥トイフ。古史ニ謂ハラク、瑟美拉弥ハ
蓋シ女神ノ子ナリ。生レテ路傍ニ棄ラル。鵠来リテ之
ニ食ヲ與ヘ、終ニ生長ニ及ベリト。此時尼奴斯把克多

拉ヲ攻シガ久シク援ケズ。尼奴斯計畫キ、罽ヲ解テ去
ニト欲ス。瑟美拉弥、尼奴斯ニ告エテ、攻城ノ策ヲ述ブ。
尼奴斯之ヲ用ヒ、遂ニ城ヲ拔ク。得タルニ奴斯、其
美ニ眷戀シ、其智ニ服シ、納レテ后ト為ス。

○尼奴斯卒シ、其子尼々而嗣ク。其母瑟美拉弥、政ヲ攝
シ、更ニ大功ヲ立テ、前王ノトニ超過セシヲ求ム。先
ニ尼々微城ニ倣テ、巴比倫城ヲ修築ス。其偉麗ナルヲ
旧史ニ記スル処、殆ンド信ズベカラザルガ如シ。都城
ノ形方正ニシテ、周圍ノ大サ十四時程アリ。牆壁ノ高
サ塔ノ如ク、其廣サ六輛ノ車ヲ並ニ馳スベシ、尤右ノ

翼壁ニハ、二十五座ノ銅造ノ塔アリ、都城ノ中央ヲ貫
テ、幼發拉的河灌流ス、河ノ兩岸ニハ、同ク高厚ノ壁ヲ
築造ス、河ノ中央ニ一橋ヲ架ス、闊サ三十尺、橋ノ前後
ニ、各壯麗ナル邸宅アリ、此邸宅ハ、其下ニ猶宏大ナル
巨屋アリ、此巨屋ヲ基礎トシ、其上ニ土ヲ層積シ、以テ
此邸宅ヲ作り、更ニ園庭ヲ開キ、其内ニ花木ヲ雜植ス、
故ニ此邸宅園庭ハ、地上ニ附著セズシテ、空中ニ飛舞
スルガ如シ、因テ名テ瑟美拉彌ノ飛園ト稱シ、天下皆
其奇巧ニ驚カザルハナシ、橋ノ東畔ニ伯路即チ巴比倫ノ關也
祿ト爲ス者是ナリヲ祭ル塔アリ、其高サ雲表ニ出

テ、塔ノ巔ニ更ニ一堂ヲ築キ、製作精美ヲ極ム、此塔ノ
高サ六百尺アリ、目今世畧ニ名ヲ得シ士的刺都堡ノ
大禮拜堂ノ塔ノ如キモ、猶五百七十尺ニ過ギズ、此都
城ノミトラズ、凡ソ瑟美拉彌ノ過ル処ハ、新ニ都邑ヲ
開キ、邸宅ヲ築キ、又ハ高大ナル碑石ヲ建テ、以テ已カ
名ヲ不朽ニ傳ニト欲スル者多シ、
○土木工作ノ盛大ニ至リテハ、瑟美拉彌ノ為ス処、已
ニ前王尼奴斯ノ上ニ超越ス、瑟美拉彌是ヲ以テ未ダ
足リトセズ、更ニ武功ヲ以テ、無前ノ大勲ヲ立ニト
欲シ、自ラ大軍ニ將トシテ、亞細亞諸國ノ未ダ服従セ

ザル者ヲ伐テ悉ク之ヲ降シ、印度國ノ盛大富庶ナル
ヲ聞キ、是ヲ併吞セント欲シ、更ニ兵ヲ發シテ印度
ニ向ヒ、屢戰テ屢捷ス、其國界ノ大河ナル印度河ニ至
リシ時、忽チ印度ノ大軍ニ逢フ、印度ノ軍ハ、其前隊ニ
大象ヲ列シ、象ノ背上ニ戰樓ヲ載セ、兵士各兵器ヲ執
テ象背ニ騎リ、以テ戰ニ臨ム、接戰ニ及ビ、象亦自ラ鼻
ヲ以テ敵ヲ擊テ、蹄ヲ以テ蹂躪ス、亞述ノ兵、是ヲ見テ
恐レテ敢テ進マズ、瑟美拉弥、其敵ニ難キヲ知リ、更ニ
假象ヲ作りテ、之ヲ威サント欲シ、獵シテ數千頭ノ水
牛ヲ得、其皮ヲ剥シ、畫テ象皮ノ如クシ、許多ノ駱駝ヲ

捕テ、是ニ水牛ノ皮ヲ被ラシメ、亞述ノ戰士、兵器ヲ執
テ其上ニ跨リ、以テ戰ニ臨ム、印度ノ兵、之ヲ見テ大ニ
驚キ退走ス、忽チ印度ノ間諜、其真象ニ非ルヲ知リ、
走リテ之ヲ告グ、印度人大ニ喜ビ、勇ヲ奮テ、亞述ノ陣
ヲ衝突ス、駱駝、真象ニ逢ヒ、畏避散走ス、亞述ノ陣大ニ
亂シ、死傷スル者甚ク多シ、瑟美拉弥、創ヲ被ルヲ二次、
僅ニ身ヲ以テ免カレ、一擲ノ殘兵ヲ聚メテ本國ニ還
ル。

○幾モナリシテ、國中ニ兵亂起ル、瑟美拉弥報ヲ聞キ、
衣冠ヲモ整ヘズ、亂髮ヲ以テ、直ニ亂兵中ニ入ル、其氣

色雄壯、千軍ヲ壓スルニ足ル、亂兵戰ハズシテ自ラ散
ス、瑟美拉彌其首謀ノ者ヲ捕テ自殺ヒシ人國中忽チ
治マル、其後瑟美拉彌己ガ像ヲ作り、亂髮ノ狀ヲ為サ
シ人、以テ此偉功ヲ後世ニ傳ヘシム、幾モナクシテ、瑟
美拉彌政權ヲ其子尼々亞ニ譲リ、其行ク処ヲ知ラズ、
時人皆瑟美拉彌神ト為リテ、其形ヲ隱セシ者ト謂
ヘリ。

○尼々亞懦弱ニシテ、女色ニ溺ル、常ニ婦人ト共ニ深
宮ニ在テ出テ諸臣ニ接スルヲ稀ナリ、是ニ依テ國人
瑟美拉彌ノ再ビ出テ政ヲ執ルヲ望ムヤル者ナシ

尼々亞ヨリ後ノ諸王亦皆庸闇ニシテ、其名ヲモ傳フ
ル能ハサル者多シ、其最終ノ王ヲ撒霸拿巴路トイフ、
珀尔屈曰ク、歐色泥ノ史ニ、尼々亞以後ノ王三十六
世ノ名ヲ記セリ、然レモ唯其名アルノミニテ、少シ
モ事迹ノ存スル者ナケレバ、今略シテ之ヲ載セズ、

第三十二

世述國ノ滅亡

紀元前八百八十六年

○撒霸拿巴路ハ其庸暗他ノ諸王ニ過ク、王心ヲ政
事ニ留メ、常ニ婦人ト宮中ニ居リ、遊戲ヲ事トシ、或

ハ婦人ト共ニ毛絲ヲ績シ或ハ婦人ノ衣ヲ服シ其為
ス必痴人ニ近シ故ニ當時稱シテ淫逸ノ王ト為ス馬
太ノ方伯亞祖矢王ノ淫蕩ノ所業ヲ見テ以為ラク擊
テ之ヲ滅スニシト歸テ其狀ヲ其兵士ニ語リ更ニ二
人ノ大將ニ結ビ共ニ兵ヲ起シテ王ヲ攻ム王報ヲ聞
テ忤愕シ走テ深宮ニ藏ル然レ是ヲ以テ能ク免カ
ルニキニ非ルヲ知リ已ヲ得ス兵器ヲ執テ戰場
ニ臨ム亞祖矢王ノ兵ト戦テ屢々其軍ヲ敗ラル王之
ヲ見テ喜ビ望外ニ出テ大ニ其軍士ヲ饗シ食饌ノ美
ヲ極ム王軍士ト共ニ醉飽歡洽シテ復々敵ニ備ルノ

意ナシ

○亞祖矢之ヲ聞キ夜ニ集シテ王ノ陣ヲ襲ス王ノ軍
士狼狽ニ走テ凡々微城ニ入ル偶低格里河大ニ漲リ
テ城壁ヲ壞リ河水城中ニ溢レ入ル王其免ル一カウ
ザルヲ知リ火ヲ宮中ニ放テ多クノ婦人ト共ニ焚死
ス城中ノ寶貨皆灰燼ト為ル三將入テ凡々微ニ據リ
分テ亞述ノ地ヲ取ル亞述國亡ス

○是ニ於テ亞述ノ地分レテ新亞述巴比倫馬太ノ三
國ト為ル新亞述國ハ耶穌生前七百二十年撒馬拿薩
ノ時ヲ最モ盛ナリトス撒馬拿薩王國以色列ヲ攻テ

之ヲ滅ビシハ土文既ニ之ヲ記セリ第二十二其後
庸君屢出シテ以テ竟ニ百餘年ニシテ巴比倫馬太二
國ノ爲ニ滅ボサル

○巴比倫國ハ耶穌生前六百年耶布谷鐸諾索ノ時ヲ
以テ最モ盛ナリトス王兵ヲ出シテ盡ク西亞細亞ノ
地ヲ征服シ西頓雅羅ヲ破リ耶路撒冷ヲ拔キ猶大人
ヲ驅テ巴比倫ニ遷シ又埃及人ト戰テ之ニ勝テ其降
民ヲ以テ奴隸ト爲ス王ノ歿スルニ及ビ國威大ニ衰
ハ馬太國代テ亜細亞ノ大國ト爲ル

○馬太國ハ亞述國ノ東方ニシテカス比海ノ濱ニ在

リ其首都ノ耶克巴大耶トイフ其廣大美麗ナルヲ尼
ニ微巴比倫ニ下ラズ都城ノ周圍ニハ七層ノ牆壁アリ
テ一層ハ一層ヨリ高シ牆壁ノ頭ハ七層皆其色ヲ
異ニシ外端ノ茅一層ハ白ク第二層ハ黒ク第三層ハ
赤ク第四層ハ青ク第五層ハ曇赤茅六層ハ銀ヲ鍍シ
茅七層ハ金ヲ鍍ス故ニ遠ク之ヲ望ノバ虹霓ノ如シ
其中央ニ王宮ヲ作ル王宮ノ美麗人目ヲ驚カスニシ
檳楠梁枋ヨリ回廊ノ柱ニ至ルニデ金銀ヲ以テ之ヲ
裹ミ屋瓦ハ悉ク銀ヲ以テ之ヲ作ル茅七牆ト茅六牆
ノ間ニ王ノ近臣ノ邸宅アリ其他ノ民ハ其外ニ住居

此地ハ氣候涼キヲ以テ、後年ニ至リ、波斯王避暑ノ所ト爲ル。耶克巴大那ノ近傍ニ拉熱斯ラゼストイヘル邑アリ、亞柏矢其子ヲシテ茲ニ居ラシム。馬太ハ本ト亞述ノ屬部タリシガ、亞柏矢ノ時、獨立ノ國ト爲リ、自ラ王号ヲ稱ス。亞柏矢卒スル後、國內擾亂シ、久シク平カナラズ。狄玉塞ディグムトイフ者アリ、國內ノ一小村ヨリ出デ、初メ糾官ト爲リ、紀元前七百年、國人ノ推選ニ因テ國王ト爲ル。狄玉塞ノ時、馬太ノ國威大ニ張り、隣國ノ波斯ヲ取テ、馬太ノ郡縣ト爲ス。然ルニ紀元前五百十五年、狄玉塞ノ孫亞斯知芮アシグ在位ノ時、波斯國ニ不世出ノ

英傑出デ、馬太ヲ伐テ之ヲ滅シ、其他ノ近國ヲ攻テ、盡ク是ニ克チ、遂ニ亞細亞ノ大國ト爲ル。其英傑ノ名ヲ西祿斯シラストイフ。

新三國ノ史ノ詳説

新巴比倫國

○此國ヲ創建セシ人ハ、其名ヲ巴拉坦バラン又拿朴納撒ナプナサトイフ。馬太ノ亞柏矢ト兵ヲ合セ、亞述王撒魯拿巴路サルナパル亡シテ、其國ヲ奪ス。聖經ニ曰ク、拿朴納撒ハ、巴比倫國ノ王ナリ。希西家シヤヤ稱大王、神助ヲ得テ、十五年ノ性命ヲ延スト開キ、物ヲ贈リテ、其幸福ヲ賀ス。拿朴納撒又新

ニ日曆ヲ作りテ之ヲ行ス後世稱シテ拿朴納撒ノ紀
年トイフ。拿朴納撒ノ子米羅達父ニ繼テ巴比倫ノ王
位ニ登ル。此時巴比倫亞述合シテ一國ト爲ル。烏泄流
ハ以爲久。亞述王亞撒哈頻巴比倫ヲ吞滅ヒリト知利
那ノ史ニハ以爲久。巴比倫王米羅達亞述ヲ亡ボセリ
ト其說相反シテ未ダ一ニ歸スルヲ能ハズ

新亞述國

○新亞述國ニ於テ事業ノ後世ニ傳ハリシ諸王ハ左
ノ如シ。(一)ト爾一ト答連多貨幣ノ名ノ貨幣ヲ受テ以色
列ノ王米拿現ヲ助ク。(二)ト爾ノ子滴臘哈拉撒哈西ノ

王ト戦ヒ、約但河ノ東方ノ地并ヒニ終布倫尼弗大利
族ノ居ル加利勒ノ地ヲ取リ、其民ヲ亞述ニ遷ス。(三)撒
馬拿薩撒馬里ヲ圍ハテ三年、遂ニ之ヲ陷シ、其王何西
及ヒ以色列ノ殘餘ノ民ヲ亞述ニ遷ス。何西囚虜ノ内
ニ在テ卒ス。是ヨリ異邦ノ民亞述國ニ雜居シ、猶大ノ
殘餘ノ民是ニ合シテ撒馬里ノ民族トイフ者起ル。○
西拿基立繼テ亞述ノ王位ニ登リ、兵ヲ出シ、其國猶
大ヲ撃チ、耶路撒冷ヲ圍ム。然ルニ天使下リテ、亞述ノ
軍ヲ撃チ、一夜ニ十八万五千人ヲ殺ス。西拿基立走テ
本國ニ還ル。王ノ二子亞得米勒沙哩斯王ヲ弒ス。○西

拿基立ノ少子亞撒哈頌亞述ノ王位ヲ嗣グ王巴比倫
ヲ滅シテ之ヲ亞述ニ合セ又其大將ヲシテ猶大ヲ擊
シ人猶大王馬拿西ヲ捕ヘテ巴比倫ニ送り後赦シ
テ本國ニ還ス

○撒拉古一名支呢拉但其父掃斯多金掃斯多金ハ即チ撒哈頌ノ
子ノ後ヲ嗣グ此時馬太王史亞利勒巴比倫ノ方伯
拿保卜拉撒迦勒底ノ種族ト兵ヲ令セテ王ニ叛ク王
之ト戰テ敗績ス兩國ノ兵入テ尼々微城ヲ破リ分テ
亞述ノ地ヲ取ル

○巴比倫國ハ是ヨリ改メテ迦勒底巴比倫國ト稱ス

此國ニ於テモ雄豪ノ王代ル々出少拿保卜拉撒ノ子
那布各鐸諾索埃及ノ王ト戰テ大ニ之ヲ破リ第十九
シ又兵ヲ轉ジテ猶大ヲ攻ルテ兩次遂ニ耶路撒冷
ヲ陷レ其王約雅斤ヲ捕ヘテ巴比倫ニ送り更ニ馬大
尼ヲ以テ耶路撒冷ノ王ト爲シ名ヲ西底家ト更メ西
底家位ニ在ル九年巴比倫ノ軼ヲ脱セシト欲シテ
兵ヲ起ス那布各鐸諾索大兵ヲ以テ耶路撒冷ヲ攻テ
之ヲ拔キ西底家ヲ捕ヘ初ノニ其二子ヲ殺シ後西底
家ノ目ヲ抉リ是ヲ巴比倫ニ囚繫ス巴比倫ノ將尼布
撒刺坦瑣羅門ノ聖殿王宮及ビ全市街ヲ焚キ城垣ヲ

摧倒ス其火ヲ放ツノ前、聖殿ノ寶貨及ヒ其他ノ重器
ハ、尼布撒刺坦、盡ク取テ巴比倫ニ送ル。那布各鐸諾索、
他國ヨリ取ル処ノ貨財ヲ以テ、其都城巴比倫ヲ修飾
シ、其偉麗ヲ極ム。後病狂シテ卒ス。西希家巴比倫ニ囚
ハル、一五十七年、巴比倫王ヲ赦シ、殊禮ヲ以テ之
ニ遇ス。巴比倫ノ最終ノ王ヲ拿保尼多、一名巴爾答撒
トイフ、其事ハ下文ニ記ス。
○馬太ノ事ハ、上下ノ文中ニ出ルヲ以テ、別ニ表出セ
ズ。

波斯ノ史

第三十三

西祿斯 其幼時

耶穌生前五十五年

馬太ノ最終ノ王、西祿斯知芮、一夜其女曼達尼、水ヲ汲
ニ、其水溢リ、西細亞ノ全洲ノ漂没ヒ、ト夢ム。王
占夢ノ博士ヲ召テ、其吉凶ヲ判セシム。博士判シテ曰
ク、殿下ノ公王、西細亞全洲ヲ統轄スルノ子ヲ生ムニ
シ、王ヲ聞テ、其女ヲ疎ミ、之ヲ王宮ヨリ出シ、波斯ノ
地ニ遣シ、波斯ノ事ハ、岡底西トイハル順良ナキ男子

二嫁與ス。

珀尔屈曰久此一條ハ希羅多達ト入斯知那ノ史ニ
據シ者ナリ折諾貢ノ史ニハ曼達尼罔底西ニ嫁セ
シヲ記スレド並斯知那ノ夢ト西祿斯ヲ棄ミ
ヲ記セズ折諾貢ノ史ニ又曰ク西祿斯十二歳ノ時
其母曼達尼携テ馬太ノ王宮ニ還リ馬太ノ禮法ヲ
學バシム。

曼達尼茲ニ在テ一子ヲ産ム名ケテ西祿斯トイハ王
之ヲ聞テ恐レ其子ヲ王宮ニ召ミ親臣哈尔巴苦ニ命
ジテ之ヲ無人ノ境ニ棄シム哈尔巴苦兒ヲ携テ出シ

ガ自ラ手ノ下ニ死地ニ置ニ忍ビス然レモ棄ル
時ハ又王ノ聞テ怒ニテヲ恐レ徘徊踟躕ス俄途ニ
テ牧人ニ逢ヒ已ニ代リテ其兒ヲ棄シム牧人兒ノ美
麗ナルヲ見テ之ヲ棄ルニ忍ビス此時牧人ノ子新ニ
死ニテ因ノ歸テ兒ノ其婦ニ託ス婦西祿斯ノ衣ヲ以
テ已ガ死兒ニ被フ人ノ之ヲ幽僻ノ所ニ棄ル三日ニ
シテ牧人都ニ出テ哈尔巴苦ニ逢ヒ兒ヲ棄ミテ告
グ哈尔巴苦其親僕ヲ遣リテ棄兒ノ屍ヲ檢セシメ之
ヲ其処ニ埋ム。

○西祿斯牧人ノ家ニ生長シ日ニ牧場ニ出テ群畜ヲ

驅逐シ。又他ノ牧人ノ子ト游戲ス。此時ニ當テハ誰人
モ思ハザリキ。此牧人ノ衣ヲ穿タル小兒。遂ニ成名顯
赫ナル。亞細亞ノ大英主ト為ラントハ。而祿斯幼ニシ
テ敏慧。人皆之ヲ愛ス。諸兒ト游戲スル毎ニ其頭領ト
為ル。嘗テ馬太ノ一望族ノ子。而祿斯ト遊バ。而祿斯常
ノ如ク其頭領ト為ル。諸兒ニ其職務ヲ分配ス。望族ノ
子。牧兒ノ命ヲ聽ク。テ欲セズ。而祿斯其不順ヲ數人
他ノ牧兒ヲシテ之ニ罰ヲ加ヘシム。望族ノ子泣テ家
ニ歸リ。具サニ其事ヲ父ニ告グ。其父大ニ怒リ。直チニ
馬太王ノ前ニ出デ。其事ヲ訴ヘ。驕傲不遜ノ牧兒ノ罰

セニトヲ求ム。

○王之ヲ聞テ怒リ。牧人ト其兒トヲ召シ。親ラ詰責シ
テ曰ク。汝微賤ノ身ヲ以テ。我親重スル大族ノ子ヲ辱
カシムルハ何ゾヤ。而祿斯坦然トシテ曰ク。臣諸牧兒
ト游戲セシ時。諸牧兒。臣ヲ以テ頭領ト為ス。臣命ヲ諸
兒ニ下セシニ。皆其命ヲ聽ク。獨リ彼兒其值ヲ受テ。命
ヲ用ヒス。故ニ之ヲ罰スルノミ。臣ガ言誠實ニシテ。些
ノ虛偽ナシ。

○亞斯知芮王。而祿斯ノ對ヲ聞キ。其凡常ノ牧兒ニ非
ルヲ知リ。又其面貌骨格。其女曼達尼ニ類似シ。其年

齡ヲ推スニ、嘗テ棄シ処ノ児ニ齊シカルマキヲ思
ヒ。此牧児ヲ以テ、曼達尼ノ生ム処ノ子ナルカト疑フ
因テ牧人ニ問テ曰ク、汝如何シテ此児ヲ得タル、牧人
匿スト能ハズ、盡ク其實ヲ吐ク。王、哈尔巴苦ノ已ヲ欺
キシヲ怒リ、侍衛士ヲシテ急ニ之ヲ召サシム。哈尔巴
苦至ル。王之ヲ誚メテ曰ク、我嚮ニ爾ニ命シテ、我女ノ
子ヲ殺サシム。爾實ニ之ヲ殺セリヤ否。哈尔巴苦大ニ
恐レ、牧人ノ其側ニ在ルヲ見テ、復タ遁辞ヲ設クベカ
ラサルヲ知リ、具サニ實ヲ以テ告グ。王怒ヲ匿シ、陽
ニ棄児ノ死セザルヲ喜ビ、之カ爲ニ饗筵ヲ張ント

ス。哈尔巴苦ニ謂テ曰ク、爾モ亦饗ニ就ケ。爾ノ児ヲシ
テ西祿斯ト友タランニ。爾其ノ之ヲ王宮ニ出セ。
○哈尔巴苦喜ビ、其子ヲ王宮ニ送ル。王之ヲ殺シ、煮テ
膳ニ供シ。哈尔巴苦ヲ名テ膳ニ就カシム。哈尔巴苦之
ヲ知ラス。食ニ畢リ、王問テ曰ク、食膳ノ味何如シ。哈尔
巴苦對テ曰ク、極ノテ美ナリ。王嘲笑シテ曰ク、爾カ食
フ処ノ内ハ、何ノ内ハ、因テ侍臣ニ目ス。侍臣、哈尔巴苦
ヲ延テ一所ニ至リ、蓋アル籠ヲ見セシム。哈尔巴苦蓋
ヲ撤ミテ見レバ、其子ノ頭腕皮骨、其内ニ充ツ。哈尔巴
苦愕然トシテ色ヲ失フ。王ノ所行ノ兇虐ヲ憤リ、恨骨

體微ス。然レモ深ク忍ビテ顔色ニ顯ハサズ。

○占夢博士王ニ告テ曰ク王恐ル、勿レモ西祿斯牧
兒ニ推尊セラレテ頭領ト為ル王ノ如キ威權ヲ施セ
リ。夢兆是ニ至テ已ニ了セリ。爾後此兒決ミテ更ニ王
位ニ登ルノ兆ナシ。

○王悦ビ西祿斯ヲ召シ謂テ曰ク余誤テ夢兆ニ迷ヒ。
不慮ヲ以テ汝ニ屬セリ。汝天幸アリテ此奇禍ヲ免カ
レタリ。今余汝ヲ送テ波斯ニ歸ラシメ。汝波斯ニ歸
リテ牧人ノ父母ノ外更ニ真ノ父母ニ逢フベシ。

○西祿斯波斯ニ還ル。岡底斯夫妻久シク西祿斯ヲ以

テ死セリトヒシカバ其歸ルヲ見ルニ及ビ驚喜言フ
ベキラズ。西祿斯其身ノ運ノ奇ナルヲ其父母ニ語
ル。然レモ猶未ダ詳ニ之ヲ告ゲズ。又深ク牧人ノ母ノ
恩ヲ稱ヒス。唯我母我牧人ノ母トイフノミ。

○亞斯知苗王西祿斯ヲ念ヒ其母ト共ニ名ミテ王宮
ニ至ラシム。西祿斯宮殿ノ壯麗ナルト王ノ鬚眉頭額
盡ク文飾ヲ施セルヲ見テ異トシテ駭カザルハナシ。
王西祿斯ヲ携テ便室ニ入ル。西祿斯走テ王ノ側ニ倚
リ。王ノ頸ヲ抱テ曰ク予何ヲ以テ此ノ如キ美麗ナル
太翁ヲ得タルヤ。其母笑テ曰ク汝カ父ト祖父ト何レ

カ美ナル。西祿斯答テ曰ク、波斯ニ於テハ、我父ノ美ニ如ク者ナシ。馬太ニ於テハ、我祖父ノ美ニ如ク者ナシ。王ノ父子、西祿斯ノ對テ喜ビ、多ク之ニ物ヲ與ヘ、且命シテ饗筵ニ就シム。

○西祿斯、警敏ニシテ滑稽ナルヲ以テ、王ノ之ヲ愛スルヲ日ニ益深シ。王又西祿斯ニ騎馬ヲ習ハシメ、之ニ良馬ヲ與ヘ、已ニ從テ游獵セシム。其餘已ガ為スルノ樂ミハ、盡ク西祿斯ヲシテ、之ニ與ラシム。以テ長ク膝前ニ置カント欲ス。哈尔巴苦、陰ニ西祿斯ガ為ニ役ヲ為シ、其歡意ヲ得、然レモ深ク其迹ヲ韜シ、人ヲシテ之

ヲ知ラレノミ

第三十四

波斯人、馬太ノ軼ヲ脱ス

○西祿斯已ニ長シテ波斯ニ還ル。波斯ノ大族、豪俊ノ少年等、盡ク西祿斯ヲ尊奉ス。一日、哈尔巴苦、西祿斯ニ野兔ヲ贈ル。使者、哈尔巴苦ノ言ヲ傳テ曰ク、宜ク人ナキ処ニ於テ、之ヲ割クニシ、西祿斯言ノ如クス。野兔ノ腹中ニ、哈尔巴苦ノ書ヲ得タリ。曰ク、公宜ク速カニ兵ヲ興シテ、暴虐ノ王ヲ伐テ、波斯ノ百姓ヲシテ、永ク馬太ノ虐政ヲ脱セシムニシ。西祿斯、其書ヲ手ニシ、民ノ

集會ニ至リ、颺言ニテ曰ク、哈尔巴苦書ヲ我ニ贈リ、我
ヲ以テ波斯ノ大将トス。我已ニ汝等ノ將タリ。汝等宜
ク我言ヲ用フベシ。明曉、爾等各鎌鋤ヲ把テ、某々ノ所
ニ會スベシ。明且、民皆約スル処ノ地ニ至ル。西祿斯之
ニ勞役ヲ課シ、荆棘ヲ芟刈シ、原野ヲ掃除セシム。薄暮
ニ至リ、西祿斯謂テ曰ク、明日各美服ヲ服シ、又此所ニ
来ルベシ。民又約ノ如ク、其所ニ至ル。西祿斯、細草青々
タル平原上ニ之ヲ伴ヒ、獸畜酒漿、其他許多ノ食物ヲ
與ス。民獸畜ヲ宰シ、或ハ煮、或ハ焼テ之ヲ食ヒ、酒ヲ飲
テ樂ムヲ甚シ。

○西祿斯謂テ曰ク、嗚呼汝衆庶、我朋友、昨日ト今日ト
孰レカ樂シキ、皆同聲ニ答テ曰ク、昨日ハ奴隸タリ、今
日ハ自主タリ、其苦樂比擬スミキニ非ス。西祿斯曰ク、
汝等能ク馬太ノ虐政ヲ脱スルヲ得ベ、永世自主ノ
民タルベシ。暴王亞斯知芮ノ管轄ノ下ニ在ルハ、畢
生奴隸タルヲ免カル、ヲ能ハス。汝等若能ク我命ニ
從フバハ、自主ノ民タルヲ得ルヲ難キニ非ズ。知ラ
ズ何レヲ捨テ、何レヲ取ラントスルカ。
○波斯人久シク馬太ノ虐政ヲ苦ミシカバ、西祿斯ノ
言ヲ聞キ、皆奮躍シテ之ニ從ヒ、遂ニ兵ヲ起シテ、馬太

ニ叛キ。西祿斯ヲ推テ王ト為ス。馬太王之ヲ聞テ大ニ驚キ。急ニ大軍ヲ發シ。哈爾巴苦ヲ以テ大將ト為シ。波斯ヲ征セシム。哈爾巴苦固ヨリ深ク王ヲ怨ムヲ以テ。全軍ヲ擧テ波斯ニ應ズ。亞斯知芮王怒ル。甚ニ占夢博士ノ已ヲ欺クヲ怒リ。之ヲ捕テ十字架ノ刑ニ行ヒ。更ニ大軍ヲ發シ。王自ラ之ニ將トシ。以テ波斯ヲ伐ム。馬太ノ軍大ニ敗レ。亞斯知芮王。波斯ノ兵ノ為ニ生擒セラレ。西祿斯王ノ縛ヲ解キ。之ヲ已ノ宮ニ伴ヒ。之ヲ尊敬スル。一日ニ異ナラズ。是ニ於テ馬太ノ大國。忽チ滅ビ。盡リ。波斯ノ郡縣ト為ル。亞斯知芮。西祿斯ノ所

ニ在テ其生ヲ畢ル。

第三十五

西祿斯ノ功業

呂底亞王克勒索ノ戰。

○是ヨリ以來。西祿斯ハ大ニ騎兵ヲ養ヒ。其勤情ノ兵ヲ以テ隣國ニ侵入シ。其土地ヲ奪ヒ。其人民ヲ脅役セシム。之ヲ驅テ以テ軍陣ニ向ハシム。其兵威ノ猛ナリ。洪流ノ山ヲ劈テ迸流スルカ如ク。過ル處ノ百物之カ為ニ蕩滅セラレザルハナシ。已ニ一國ヲ得レバ。更ニ一國ヲ望ミ。東伐西征。于戈止ム時ナシ。呂底亞王克勒索ハ。亞斯知芮ノ妹夫ナリ。西祿斯ノ四隣ヲ併吞ス。

スルヲ見テ、諸國ノ民ヲ連和緝令シ、以テ其威ヲ挫カ
ニト欲ス。

○呂底亞ハ下亞細亞ノ大國ナリ、哈利河ヲ以テ波斯
ノ境界ヲ接ス、其國富饒、隣國ニ甲タリ、故ヲ以テ、克勒
索自ラ謂ヘラク、天ノ幸福ヲ得ル者、已ニ如ク者ナシ
ト、梭倫ハ希臘國ノ七睿智ノ一人ナリ、嘗テ問遊シテ、
呂底亞ニ來ル、王之ニ寶貨ヲ示シ、且、國ノ富饒ノ状ヲ
語リ、問テ曰ク、子、四方ニ遊ビ、多ク天下ノ人ヲ知ルニ
シ、乃、今天下ニ於テ最モ天ノ幸福ヲ受シ者ハ何人ハ
梭倫答テ曰ク、雅典ノ都人の羅士ニ如ク者ナシ、克勒

索、梭倫ガ己ニ如キ大國ノ王ヲ數ハスニテ、一市人ヲ
稱スルヲ以テ、心甚ク訝リ、更ニ問テ曰ク、其故何如シ。
梭倫答テ曰ク、的羅士、生ラテ雅典ノ極盛ノ時ニ逢ヒ、
幾多ノ美麗聰明ノ兒子ヲ生シ、一族ノ内死亡ノ禍
クシテ、其孫兒ヲ見、ハリヲ得、又許多ノ土地田園ヲ有
シ、邑人ト親和和睦シ、雅典國人捷ノ時ニ於テ、壽ヲ以
テ終ル、其性善良ノリシヲ以テ、死後、至リ邑人ニ
愛惜セラレ、王又問テ曰ク、的羅士ノ後ニハ誰人カ最
モ天ノ幸福ヲ得タルハ、梭倫曰ク、希臘國ノ少年ノ兄弟
孤流倫、昆敦ノ二人ナリ、二人共ニ膂力衆ニ超テ、希臘

國ノ較場ニ於テ屢較シテ屢勝テ全勝ノ賞ヲ得タリ
二人又老母ニ孝アリ嘗テ節期ノ祭ニ其母禮拜堂ニ
詣ラントス其老タルヲ以テ兄弟共ニ從テ己ニ車ニ
登リ牛ヲ待ツニ至ラズ兄弟因テ牛ニ代リ車ヲ挽テ
禮拜堂ニ赴ク途中觀ル者皆之ヲ異トシ男子ハ此兄
弟ノ勢力ヲ賞賛シ婦人ハ老母ノ好兒ヲ得ルヲ歎美
ス己ニ禮拜堂ニ至リ老母神前ニ俯伏シ其兒ノ為ニ
幸福ヲ祈ル食シ畢リ兄弟稍疲タルヲ以テ堂中ニ
假寐シ遂ニ復タ起ズ希臘人兄弟ノ老母ニ孝アルヲ
賞シ其死ノ異常ナルヲ奇トシ為メニ高碑ヲ立テ其

事ヲ後世ニ傳ス

(一) 呂底亞王拔倫ノ言ヲ聞キ心甚ダ不滿ナリ謂テ曰
ク嗚呼他國ノ人言フ所ハ汝予ノ幸福ヲ以テ一ノ
庶人一ヒ以テリルハ何ハ拔倫答テ曰ク人晚年ニ
至リ其事不幸ナリト大ニ相及スル者アリ今日ニ在
テ之ヲ見レバト如キハ大國ヲ有シ人代ニ統馭ス
其事福無比ノルヲ如シト雖也棺ヲ蓋シ後ニ非ザ
レバ其事不幸ヲ定ムルヲ能ハズ其故ハ始ハ天ノ眷
佑ヲ得ルト雖也終リニ至リ天ニ厭棄セラレ者少
ナカラザレバナリ

○呂底亞王謂一ラク人梭倫ヲ以テ智ト為ス。何ノ智ナルコアラシ。彼目前ノ幸福ヲ棄テ獨リ後年ノ幸福ヲ論ズ。其言何ゾ迂ナル。遂ニ後夕梭倫ヲ見テ幾モナシテ王ノ長子攬ニ出デ其命ヲ殞シ存スル処ノ幼子聲ニシテ啞ナリ然レモ其不幸猶未ダ甚シカラス。西祿斯ト畔ヲ啓クニ及ビ真ノ不幸王ノ身ニ歸セリ。○克勒索將ニ波斯ヲ伐ントス。先ヅ使者ヲ中希臘ノ特爾斐ニ遣ニ太陽神廟ノ祭司ノ所ニ詣ラシム。蓋シ此神祭司ノ口ニ憑テ未來ノ吉凶ヲ告ルト云フヲテレミナリ。呂底亞ノ使者先ヅ祭司ニ許多ノ贈遺ヲ為

シ。後問テ曰ク我王兵ヲ起シテ波斯ヲ伐ント欲ス。其吉凶何如シ。祭司神語ニ據テ答テ曰ク若シ兵ヲ哈利河^{ハリス}ニ出スハ必ズ能ク大國ヲ破滅スベシ。○呂底亞王祭司ノ言ヲ聞キ心ニ其必捷ヲ期シ兵ヲ發シテ哈利河ヲ涉リ以テ波斯ヲ撃ツ。而祿斯大ニ怒リ兵ヲ出シテ邀ヘ戦フ。兩軍奮闘極メテ烈シ。夜ニ至リ死傷山積シ。兩軍皆血ニ浴シテ戦フ。然レモ雌雄遂ニ決セズ。克勒索其驂カニ勝難キヲ見急ニ兵ヲ還シテ其都城撤得斯ニ歸リ。明年ニ至リ更ニ大舉シテ其

ハリス 出スハ必ズ能ク大國ヲ破滅スベシ

○西祿斯早ク克勒索が再舉ノ志アルヲ料リ、呂底亞ノ兵退クニ及ビ、直チニ其後ヲ追躡ス。克勒索甫メテ其都城ニ歸レバ、波斯ノ大軍、已ニ城門ニ逼レリ。呂底亞ノ兵、防戦利アラズ。波斯ノ兵、都城ニ亂入シ、殺傷甚タ酷ナリ。此時波斯ノ一兵卒、走り入テ王ヲ刺スト。王ノ幼子、舍幼忽チ斷エ、絶叫シテ曰ク、敵兵願クハ王ヲ殺サシメ、王遂ニ波斯ノ兵ニ擒セラル。西祿斯ノ前ニ至ル、西祿斯命ジテ之ヲ焚殺セシム。是ニ於テ薪ヲ其前ニ積ミ、克勒索ヲ械ニテ其上ニ縛シ、火ヲ其下ニ放ツ。火氣炎々トシテ上ル、克勒索絶ニテ復タ甦ス。

忽チ希臘ノ智者ノ言ヲ念ヒ、梭倫ト時ブ者三タビ、此時波斯ノ兵ノ之ヲ見ル者、皆默然トシテ一語ヲ發スル者ナシ。西祿斯之ヲ聞キ、暫ク火ヲ傳メシメ、汝ガ呼ガル者ハ何人ゾト問フ。克勒索始メハ答ヘザリシガ、良久シテ謂テ曰ク、凡ソ一國ニ君タル者ハ必ズ此人ヲ延テ師ト爲リマシムカラズ、因テ具サニ、已ガ梭倫ト問答セシヲ語グ。氣息奄々トシテ將ニ絶スト。

○西祿斯、克勒索ノ言ヲ聞テ、心深ク感シ、克勒索ガ國王ノ貴ヲ以テ、非命ノ死ニ就クヲ哀シシ、急ニ命ジテ

火ヲ滅セシメ、之ヲ薪上ヨリ下シ、伴テ本國ニ還リ、擧
テ宰相ト爲ス。克勒索波斯ノ爲メニ力ヲ盡シ、功勞衆
ニ起タリ。

○克勒索波斯ニ在テ、其己ガ薪上ニ在テ受シ、其ノ被
ヲ特ハ斐ノ祭司ニ送り、之ヲ責シメテ曰ク、吾汝ニ厚
ク贈遺セシハ、豈汝ヲシテ、吾ヲ欺カシムル爲ナラン
ヤ。祭司答テ曰ク、予嘗テ子ヲ欺クコトナシ、唯大國ヲ破
滅スベシトイハル神語ヲ傳ヘシノミ、然レモ所謂大
國ナル者ハ、呂底亞ヲ指スル、波斯ヲ指スル、神亦之ヲ
告ケリリミナリ。

第三十六

西祿斯ノ功業ノ續、及ビ其卒去。

○西祿斯ハ呂底亞ヲ滅ボシト聞キ、全亞細亞ノ民、
震懼セザル者ナシ。西人ノ謂、亞細亞ハ多殊、希臘ノ民、之ヲ恐ル、一最モ甚シ。此希臘ノ民ハ、亞細亞ノ西方濱海ノ地ニ住居セル者ナリ、故ニ此民ハ希臘ノ民ト稱ス。初ノ西祿斯使ヲ遣ハシテ、和ヲ希臘人ニ求
メシハ、希臘人、西祿斯ノ梟雄ナルヲ以テ、後患ヲ畏レ
之ニ應ビズ。却テ呂底亞王希勒索ト和親セシト欲ス。
呂底亞ノ亡ブルニ及ビ、希臘人、梓ヲ卑フシテ和親ヲ

波斯ニ求ム、西祿斯應一ス、人ヲシテ謂ハシメテ曰ク、
今一ノ漁者アリ、笛ヲ吹テ水濱ニ立、魚ノ其聲ヲ聞
テ躍ルヲ待テ之ヲ捕ヘニカ為ナリ、然ルニ魚少シモ
躍ラズ、是ニ於テ、網ヲ水中ニ投ジ、盡ク之ヲ捕ヘ、地上
ニ放置ス、魚躍ルニ甚シ、漁者謂テ曰ク、汝向キニ我笛
ヲ吹ク時ニ於テ躍ラズ、今躍ルトモ、何ノ益カアラニ
爾希臘人ノ和ヲ求ムル、何ヲ以テ是ニ異ナラシト、幾
モナクシテ、其將ニ命ジテ希臘ノ民ヲ撃タシム、悉ク
敗テ之ヲ下ス、

○西祿斯夫ヨリ大軍ヲ以テ亞述國ニ入ル、其都城巴

比倫ハ、壯大堅固、力ヲ以テ取ルベカラザルヲ知リ、
計ヲ用ニテ之ヲ拔ント欲ス、此時巴比倫ニ大祭アリ、
其夜天色闇黒、咫尺ノ辨セズ、西祿斯、其兵ノシテ河水
ヲ蹈テ、城ヲ襲ハシム、水深キヲ帶ニ及テ、波斯ノ兵、流
ニ從テ、潛ニ城中ニ入り、巴比倫人ノ沈酔セルニ乘ジ、
急ニ起テ攻撃ス、巴比倫人蒼皇狼狽、戦ハスニテ走ル、
而祿斯一宵ヲ以テ巴比倫城ヲ拔キ、勢ニ乘ジテ、其全
國ヲ降ス、是ニ於テ波斯ノ疆域、西ハ地中海ニ至リ、東
ハ印度ニ接シ、前古無雙ノ大國ト為ル、
自註ニ曰ク、西祿斯ノ巴比倫ヲ襲ヒシハ、行ヒシハ、

伯路^上出^下ノ祭ナリ。此夜巴比倫王巴^バ答撒大^大ニ宴ヲ
張リ、金銀ノ器皿ヲ出シテ衆ニ示シ之ヲ汚辱ス。此
器皿ハ、乃祖那布各鐸諾索聖殿ヨリ奪ヒシ物ナリ。
忽チ一ノ人手現出シ、壁上ニ咪呢^ミ咤^タ咤^タ咤^タノ三語
ヲ書ス。但以理^ル先^先知^知人^人王ノ為ニ其義ヲ解ス。國祚ノ
終ル、今夕ニ在リト告グ。王果シテ此夜人ニ殺サレ、
巴比倫國亡ス。詳ナルトハ、但以理ノ書ノ第五章ニ
出ス。

但以理^ル大流士王ノ時、州牧ノ監督ト為ル。州牧皆之
ヲ妬忌シ、但以理ヲ王ニ讒シ、逼リテ獅穴ニ投ビシ

ム。但以理天祐ヲ以テ獅口ノ害ヲ免カル。此年大流
士王卒ス。但以理又西祿斯ニ尊重セラレ、但以理、西
祿斯ノ為メニ、以賽亞^イ並^並ノ先^先知^知人^人ノ書ノ第四十四章ト
第四十五章ヲ説キ、先^先知^知人^人ニ二百年前ニ於テ、既ニ西
祿斯ノ名ヲ指シテ、其父ヲ猶大人ノ困阨ヲ救ヒ、其
都府ト聖殿トヲ再興スルヲ示セシヲ告グ。西
祿斯之ヲ聞キ、猶大人ヲ救ハントスルノ心、始メテ
決ス。詳ナルトハ、耶士鐸拉^ユノ猶大史ニ出ス。

○西祿斯是ヲ以テ未ダ足リトセズ、更ニ兵ヲ出シテ
未^ミ撒^サ其^其ヲ擊^キントス。未^ミ撒^サ其^其ハ、加斯比海ノ東岸國ナリ。

其地磽瘠ニシテ、其民强悍戰ヲ好ム。未撤其ノ女王多
美里^{ミリス}西祿斯ノ来リ撃ントスルヲ聞キ、使ヲ遣ハシテ
和議ヲ講ゼシム。西祿斯肯ズ、兵ヲ發シテ、其境ヲ侵シ、
屢勝チ、長驅シテ其國ニ入ル。多美里大ニ憤怒シ、全國
ノ民ヲシテ、盡ク兵器ヲ執ラシメ、波斯ノ軍ニ向テ必
死ノ一戰ヲ為ス。波斯ノ兵大ニ敗レ、西祿斯亂軍ノ間
ニ戰死ス。多美里、西祿斯ノ屍ヲ求メ、其頭ヲ斷テ之ヲ
桶ニ入レ、浸スニ人血ヲ以テシ、謂テ曰ク、汝ガ性人血
ヲ好ム、今汝ヲシテ之ニ饜カニゾニ、
珀尔屈曰ク、本文ニ記セル西祿斯ノ戰死ノ事ハ、希

羅多達入斯知那ノ史ニ據シ者ナリ、折諾貢ノ史ハ、
全ク是ニ異ナリ。其史ニ云ク、西祿斯卒スルニ臨ミ、
其諸子ノ腕ヲ枕シ、之ニ謂テ曰ク、爾等我死スト雖
モ、必バ我ヲ無シトスルヲ勿レ。我ニ魂魄アリ、汝等
目ニ之ヲ觀スト雖モ、我平生思慮動作スルヲアル
ヲ以テ、其魂魄アルヲ信ズベシ。此魂魄人ノ形骸
ニ從テ生死スル者ニ非ズ。魂魄、人体ヲ離ルノ後、益
精粹ト爲リ、益、能力ヲ長ズ。今人死スル時ノ状ヲ見
ルニ、唯其死体ヲ見ルノミニシテ、其魂魄ノ存亡ハ、
之ヲ見ルヲ能ハズ。凡ソ人死スルハ、睡眠ニ異ナル

ナシ、此時魂魄ハ形骸ノ為ニ束縛セラル、ナ
ク、其神功ヲ顯ハシ、未來ノ世ニ生活ス、然レハ人ノ魂
魄ハ、靈妙不測ナル者ニシテ、最モ自ラ貴バザルベ
カラザル者ナリ、

○西祿斯ノ子岡底斯父ニ繼テ波斯ノ王位ニ登ル、

第三十七

岡底斯

耶穌生前五百二十五年

○岡底斯王、遠略ヲ好ムノ心、其父ニ類似ス、西祿斯王
ノ亞細亞諸國ヲ攻伐セシヲ見テ、更ニ亞弗利加ヲ攻

略セント欲シ、自ラ大軍ヲ將テ、亞喇伯ノ沙漠ヲ涉リ、
埃及ニ入ル、此沙漠ハ、埃及人、是ヲ以テ、北方ノ險要ト
セシ者ナリ、埃及王參美尼多之ヲ聞キ、兵ヲ率テ波斯
ノ兵ヲ邀ム、百路支云ニ於テ兩軍合戦ス、埃及ノ兵大
ニ敗ル、參美尼多、殘兵ヲ引キ、走テ孟斐斯ヲ保ツ、孟斐
斯ハ埃及國ノ堅城ナリ、岡底斯追テ孟斐斯ニ至ル、埃
及人城外ニ出テ逆ハ戦フ、岡底斯詭計ヲ設ケ、前列ノ
兵ヲシテ、人毎ニ猫ヲ抱カシメ、敵ノ追クニ及ビ、高ク
之ヲ撃ゲシム、埃及人箭ヲ發セントセシガ、其神獸ヲ
傷ラン、テヲ恐レ、少シク躊躇ス、第三十七節ノ
參看スベシ波斯ノ兵

之ニ衆シ、撃テ埃及ノ兵ヲ敗ル。罔底西、更ニ兵艦ヲ泥
祿河ニ浮ベ、以テ孟斐斯城ヲ囲ミ、使者ヲ遣ハシテ、其
降ヲ責ム。埃及人憤激シ、波斯ノ兵艦ヲ撃テ、之ヲ破壊
シ。大ニ其兵士ヲ殺傷ス。罔底西大ニ怒リ、全軍ヲ鼓シ、
四面ヨリ肉薄シテ城ヲ攻ム。城兵防戦スルヲ暫時、城
忽チ陷ル。参美尼多、及ビ其一家、並ビニ埃及ノ大族、盡
ク生擒セラレ。罔底西深ク参美尼多ヲ怒リ、痛ク辛酸
ヲ嘗シメント欲ス。参美尼多、其大族ト共ニ、囚ハレテ
城ノ外郭ニ在リ。王ノ女、及ビ大族ノ女子等、皆役徒ノ
衣ヲ着、罔底西ノ前ヲ過テ、汲水ノ役ヲ為ス。大族等之ヲ

見テ皆泣ク。其女子等亦父ノ罔底西ニ在ルヲ見テ盡ク
哭ス。参美尼多ハ、初ヨリ瞑目シテ坐シ、敢テ一語ヲ發
セズ。又為メニ悲泣セズ。

○罔底西、更ニ参美尼多ノ一子、及ビ大族ノ子二十人
ヲ驅リ、頸ニ組テ纏ヒ、口ニ韁ヲ銜セシメ、罔底西ノ前ヲ
過テ、之ヲ刑場ニ送ラシム。大族等之ヲ見テ、潸然雨ノ
如ク下リ、一齊ニ聲ヲ放テ慟哭ス。参美尼多ハ、猶默然
トシテ坐シ、為ニ容ヲ動カザス。其後罔底西ノ耆老人、家本
ト富饒ナリシ者、及ビ王ノ朋友トシテ、屢食糞ヲ共ニ
セシ者、皆亡虜ト為リ、垢面敝衣、敵兵ニ驅逐セラレテ

行クヲ見。參美尼多堪ルヲ能ハズ。忽チ大ニ哭泣シ。聲ヲ揚テ。頻リニ老友ノ名ヲ呼ハ。罔庇西。參美尼多。其子女ヲ見テ流涕セズ。其老友ヲ見テ哭泣スルヲ怪ミ。人ヲシテ其故ヲ問ハシム。參美尼多。天ヲ仰テ大息シテ曰ク。嗚呼。余覺エズ。我老友ノ為ニ慟哭セリ。然レ。庇前時ノ沈黙ハ。其痛實ニ慟哭ヨリ甚シ。罔庇西之ヲ聞テ心動キ。急ニ命ジテ其子ノ死ヲ赦サシム。然レ。庇參美尼多ノ子ハ。刑死ノ首ニ在シヲ以テ。既ニ及ハズ。罔庇西。參美尼多ヲ憫レシ。之ヲ王宮ニ置キ。善ク之ヲ遇ス。其後參美尼多。陰ニ埃及人ヲ勸メテ恢復ヲ圖ラシ

人事露レテ。遂ニ殺サレ。

○罔庇西既ニ埃及ヲ亡シ。其王位ヲ廢シ。紀元前五百二十五年。其地ヲ以テ波斯ノ郡縣ト為ス。埃及ノ南方ニ以テ別阿比トハル國アリ。罔庇西嘗テ其富饒ヲ聞。更ニ兵ヲ進メ。擊テ之ヲ取ニ。欲ス。是ニ未テ得。巴ノ都府ヨリ。三万ノ兵ヲ發シ。利未亞ノ大沙漠ヲ涉リ。先ツ沙島沙漠中ニ在テ。島嶼ノ如ク。土人ヲ制服セニト欲シ。其所ニ在ル亞捫人ト戰フ。按セリ。ニ。亞捫人ハ。定メシ者ナリ。波斯ノ兵沙漠ノ内ニ在テ死スル者甚ダ多シ。已ニ以テ別阿比ニ至リシニ。兵士糧食共

置乏シ止ヲ得ズ兵ヲ引テ埃及ニ還ル罔底西歸
リテ孟斐斯ニ至リシハ偶埃及ノ民新ニ神牛ヲ得其
儀裝ヲ盛ニニシテ城ノ四周ヲ巡リ以テ互ニ相賀悦
ス罔底斯之ヲ見テ以為久埃及ノ民波斯ノ軍ノ利ヲ
失フテ歸リシヲ悦ブ者ナリト因テ怒ヲ發シ其兵卒
ヲシテ神牛ノ儀從ノ間ニ斫入セシメ其祭司ヲ捕
テ痛ク之ヲ笞テ神牛ヲ牽テ王ノ許ニ至ラシメ王自
ラ劍ヲ抽テ之ヲ刺殺ス

(罔底西志ヲ以剔阿比ニ得ザルヨリ心快々トシテ
樂々因テ酒ヲ縱ニシテ其不平ヲ消遣セント欲ス

其大醉スル時喜怒常ナク諸臣皆自ラ危ブニガル者
ナシ常テ王ノ親臣布列撒百王ノ適ニ酔フ氏王ノ前
ニ出ズ王問テ曰ク波斯人皆能ク我ヲ敬重スルカ布
列撒百答テ曰ク國民王ノ功德ヲ賞讃セザル者ナシ
然レハ國人皆曰ク王屢飲酒ノ為ニ其精神ヲ亂ス
アリト王曰ク國人ノ言或ハ理アルニ似タリ然レハ
今予此箭ヲ以テ廳前ニ立ツ汝が児ヲ射テ其心ヲ洞
サント欲ス我言フ処若誤ラズニバ國人ノ言亦採ル
ニ足ラズ言未ダ畢ラズ弓ヲ彎テ其児ヲ射ル児弦ニ
應ジテ倒ル王人ヲミテ其体ヲ剖シム箭適ニ其心ヲ

穿以王曰。射ノ精妙此ノ如シ。我精神果ミテ亂レタ
ルカ。布列撒百。深ク王ヲ怒テ曰ク。吁。嗟。皇天。豈王ノ所
行ヲ以テ善ナリトセニヤ。岡底西牙アリ。士墨尔底ト
イフ。王一宵惡夢ヲ得。是ヨリ士墨尔底ヲ嫉ミ。遂ニ之
ヲ殺ス。其妹深ク士墨尔底ノ死ヲ悲ム。王怒リ。踢テ之
ヲ殺ス。此他暴怒ニ兼シ。無罪ノ人ヲ捕メ。生カラ之ヲ
埋ハル。幾人ヲ知ラズ。

○岡底西ノ暴虐此ノ如キヲ以テ。國人皆恨ム。王ノ士
墨尔底ヲ殺スヤ。深ク其事ヲ秘ス。故ニ國人多ク之ヲ
知ラザルナリ。爰ニ馬太ノ人アリ。國民ノ離心ニ兼シ。

自ラ士墨尔底ト假稱シ。波斯ノ王位ニ登ル。岡底西埃
及ニ在リ。之ヲ聞テ大ニ怒リ。速カニ蘇撒波斯ノ首都ニ還
リ。賊ノ誅セニト欲シ。將ニ馬ニ上ラニトスル時。劍鞘
ヲ脱シ。骸骨ヲ傷キ。遂ニ之ヲ以テ卒ス。子ナシ。

第三十八

大流士

耶穌生前五百年

○今士墨尔底ト偽稱セル馬太人ハ。西祿斯ノ時嘗テ
罪ヲ犯シテ其兩耳ヲ截ラル。既ニ王位ヲ冒シ。百方之
ヲ掩フト雖凡。遂ニ暴露ス。是ニ於テ波斯ノ望族七人

同盟ニナ兵ヲ起シ、偽王ヲ攻テ之ヲ誅ス。
○既ニ賊ヲ滅ボセシ後、七將相約シテ曰ク、明且將ニ
某ノ所ニ會スベシ。其時騎ル處ノ馬先ヅ嘶フ者ヲ以
テ立テ王ト為スベシ。明日昧爽、七將各儀衛ヲ盛ニシ
テ、其約スル處ノ地ニ至ル。希斯大匹ノ子大流士トイ
フ者アリ。七將ノ一ナリ。其馬衆ニ先テ嘶フ。諸將馬
ヲ下リテ羅拜シ。大流士ヲ立テ王ト為ス。或曰ク、大流
士ノ馭人、七將ノ約ヲ聞キ、大流士ノ馬ヲ牽テ城ノ外
郭ニ至リ、明朝、七將ノ經過セニースル處ニ於テ大ニ
其馬ニ秣カフテ還ル。大流士ノ馬、其所ニ至リ、前日ノ

秣ヲ思フテ先嘶ヒシ者トリトス一リ。

○波斯ニ於テハ、固底西王、久ク國ニ在ラズ。尋テ偽王
位ヲ冒セシヲ以テ、國ノ政治大ニ亂ル。大流士位ニ即
キ、大ニ紀綱ヲ振肅シ、百廢皆舉ル。全國ヲ二十州ニ分
テ、一州毎ニ州牧ヲ置テ、之ヲ治メ、之ニ定額ノ租稅ヲ
課ス。然ルニ久シカラズシテ、巴比倫ノ亂作ル。巴比倫
ハ、西祿斯ノ時ヨリ、波斯ニ属セシガ、此時兵ヲ舉テ叛
キ、波斯ノ管轄ヲ脱シテ自立セント欲ス。大流士自ラ
兵ニ將トシテ之ヲ伐テ、其城ヲ圍ム。城固フニテ拔ケ
ズ。巴比倫人、城牆ニ登リテ、波斯人ヲ嘲笑ス。大流士怒

然レ之ヲ破ルノ計ナシ。忽チ波斯ノ將瑣比路走
リテ入来ル。王之ヲ見ルニ。鼻耳ハ截斷セラレ。頭ハ髮
ヲ剃去シテ奴隸ノ如ク。背ニハ甚ニキ鞭笞ノ痕アリ。
王驚テ問テ曰ク。誰カ汝ニ此ノ如キ辱ヲ與ヘタル。瑣
比路答テ曰ク。臣大王ノ為ニ。自ラ毀傷セリ。是則チ巴
比倫ヲ拔リノ策ナリ。臣今此狀ヲ以テ走リテ巴比倫
ニ至リ。其人ニ曰ク。余波斯王ノ為ニ此辱ヲ受ケ。恨骨
ニ次ス。願クハ城中ニ入りカヲ合ヒ。波斯王ニ向ヒ。此
恨ヲ報ビ。ト。巴比倫人必チ臣ニ幾多ノ兵卒ヲ附シ。
波斯ノ兵ヲ擊シ。以テ其真偽ヲ試ミ。十日ノ後。大

王請ノ弱卒ト人ヲ遣シ。後七日。二千入。後十二日。四千
人ヲ遣ハシテ。城ヲ攻シム。一ニ。臣出テ之ヲ擊ベ。併リ
敗レテ退カシム。臣三次波斯ノ兵ヲ敗ラハ。巴比
倫人必チ臣ヲ以テ大將ト為シ。然ルハ。事已ニ成ル
ニシ。大流士王ヲ許ス。瑣比路是ニ於テ獨リ巴比倫ニ
至リ。城門外ニ徘徊シ。真ノ叛卒ノ狀ヲ為人。巴比倫人
延テ城中ニ納レ。其波斯ニ叛ク所以ヲ問フ。瑣比路辭
ヲ正ニシテ之ヲ欺ク。巴比倫人之ヲ信ジ。之ニ幾多ノ
兵ヲ與フ。瑣比路初ノ波斯ノ兵千人ヲ擊テ。尋デ二千
人。更ニ四千入ヲ擊テ。悉ク之ヲ敗ル。城中皆良客將ヲ

得シヲ喜ビ遂ニ推シテ大將ト為ス是ニ於テ瑣比
路門ヲ開テ波斯ノ兵ヲ入ル巴比倫城陷ル大流士
比路ヲ以テ巴比倫ノ牧伯ト為シ賞賜等ナシ大流士
瑣比路ノ体ノ殘缺セルヲ哀レミ謂テ曰ク吾巴比倫
ノ如キ大成ニナラ拔ク所ガ体ノ殘缺ニ換ヘ難ニ
○國內已ニ治平セシヲ以テ大流士更ニ其疆域ヲ擴
メント欲ス其專ラ意ヲ属スル処ハ歐羅巴ニ在リ然
レモ皇天幸ニ此大洲ノ民ヲ佑ケ希臘人ヲシテ其東
門ノ鎖鑰タラシム希臘ハ小國ナリト雖モ其民勇ニ
シテ自主ヲ好ム波斯ノ猛威ニ抵抗シテ敢テ屈下セ

ズ其詳ナルハ下ノ希臘史ニ之ヲ述バ

泰西史鑑上編卷之三